

YAMAHA ELECTONE®

FS-30A

取扱説明書

音楽表現の新境地をひらく、

エレクトーンFAMシステム

FS-30A・FS-30・FS-30M・FS-20。

つねに新しい音と表現力を目指すヤマハが、最新のエレクトロニクス技術と楽器づくりのノウハウを総結集して完成させた高級スピネット型エレクトーンFS-30A・FS-30・FS-30M・FS-20。それは、奏者のこまやかな心の機微、繊細な感性を、どこまで表現できるかを追求して開発された、まさに画期的なエレクトーンです。ヤマハが世界で初めて採用したタッチコントロール機能は、指先による音楽表現を実現。奏者の豊かな感情を鍵盤にたくし音楽を思いのままに表現できるこの機能は、演奏表現の可能性を、新しく、大きくひろげました。音源には、FAMシステムという、ヤマハが誇る先進のエレクトロニクス技術を導入。音色のリアルさと厚みが飛躍的に向上し、ナチュラルで生き生きとした楽音、迫力あるリズム音を創出します。さらに、レジストレーションなど演奏に必要な要素をすべて記憶させることができ、あくまでも鍵盤に集中して、演奏表現を追求できる設計になっています。より高い音楽性を求めて探究し到達したヤマハの大きな成果、エレクトーンFS-30A・FS-30・FS-30M・FS-20。その無限ともいえる表現の可能性を最大限に引きだしてください。

■指先による音楽表現を可能にした タッチコントロール機能。

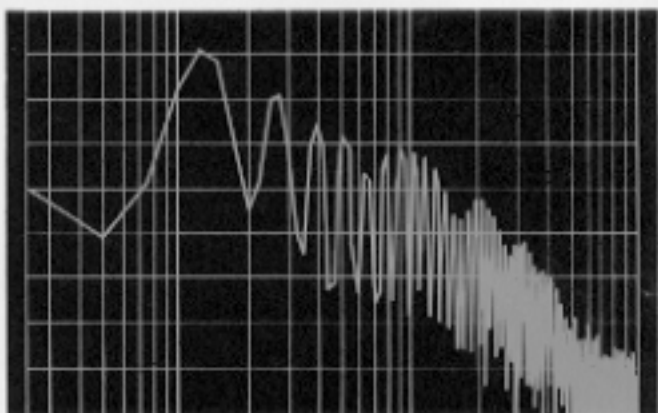
独自に開発した電子回路と鍵盤メカニズムによって、鍵盤タッチによるサウンドコントロールを実現しました。これは、鍵盤を弾く指の力の強弱によって音量・音色の変化をつけ、豊かな表情をもたせるもので、音楽表現の可能性を大きくひろげた画期的な機能です。



タッチコントロール

■FAMシステムによるナチュラルでダイナミックな音質

音源には、ヤマハが世界に先がけて導入した先進のFAM(Frequency Modulation and Advanced Memory)システムを採用しています。周波数変調による不規則音成分を楽音の音源として取りだし、一瞬一瞬でデジタル演算処理を行うDM(フリークエンシーモジュレーション)方式と、実際の打楽器音をデジタル録音によって収録し、リズム音源としてメモリーしたFWM(フルウェーブメモリー)方式によって、よりナチュラルで豊かな楽音、リアルなリズム音の創出に成功しました。



周波数変調による不規則音成分

■操作性を大幅に向上させた レジストレーションメモリー。

レジストレーションメモリーを使えば、演奏に必要な情報をすべて記憶させることができ、記憶させたレジストレーションはボタンひとつでいつでも呼び出すことができます。演奏中でも瞬時の変更、切り換えが可能ですから、パネル面の操作にわずらわされることなく、鍵盤での表現に集中できます。

■迫力ある響きを生む新しいサウンドシステム。

FAMシステムのハイクオリティな音を、さらに豊かに仕上げ、その真価を十分にひきたすため、新しい3チャンネルサウンドシステムを採用しました。各音色群の音やリズム音などが3つのチャンネルに効果的に振り分けられ、ひろがりのある立体的なサウンドが得られます。

各部の名称

U/L カスタムビブラート(P.11)

シンフォニック(P.14)

グライド(P.16)

オートリズム(P.17)

アッパーコンビネーション(P.6)

ローワーコンビネーション(P.12)

アッパーオーケストラ(P.8)

ローワーオーケストラ(P.12)

アッパ



FS-30A

コンビネーション
レバー(P.7)

トレモロスピード(P.14)

トレモロ(P.14)

マニュアルバランス(P.16)

リズムシーケンスプログラマー(P.20)

スペシャルプリセット (P.9)

レジストレーションメモリー (P.28)

ローレスPECIALプリセット (P.13)

オートアルペジオ (P.23)

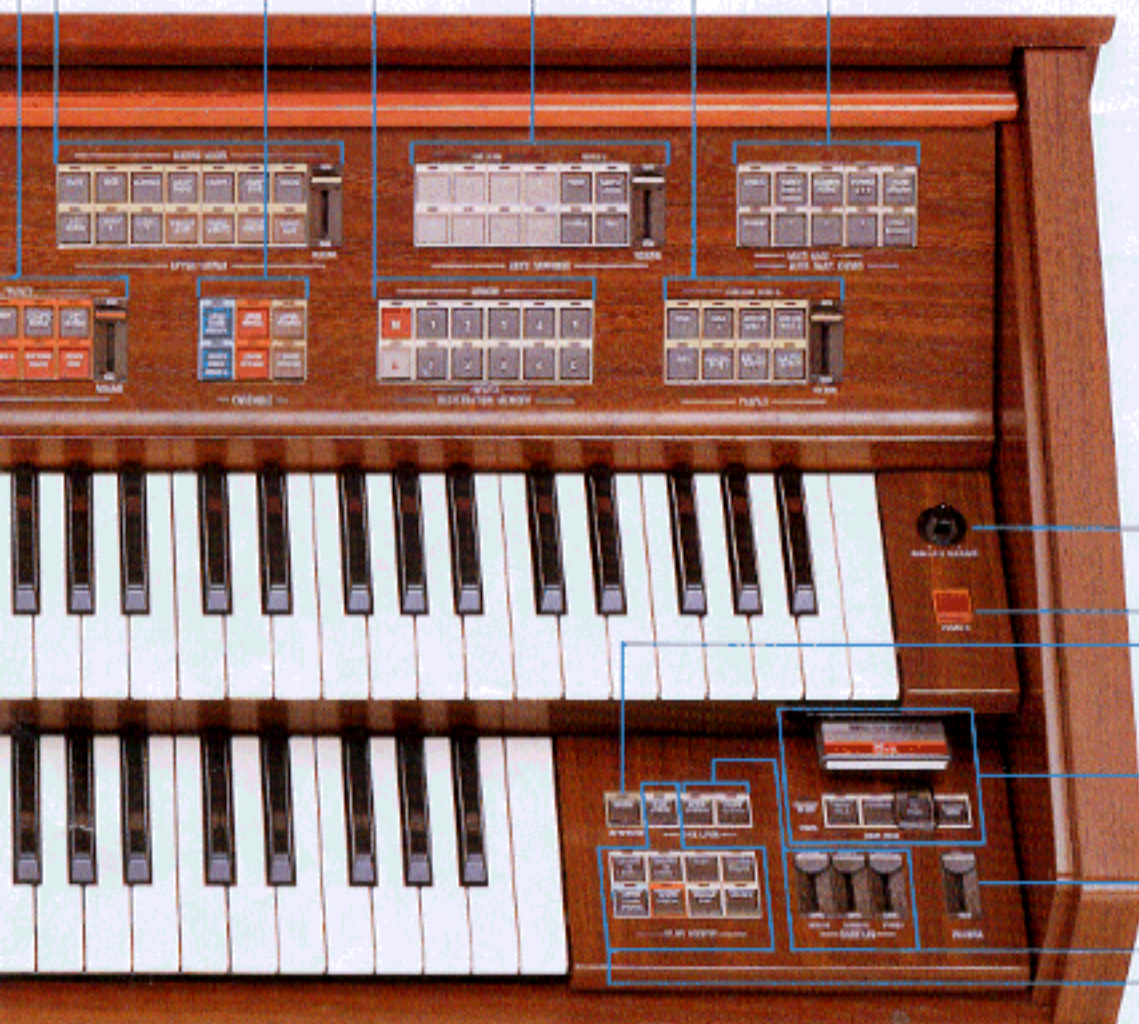
アッパー/ロー
カスタムボイス (P.10)

ペダルカスタムボイス (P.13)

アンサンブル (P.5)

オートベース/コード (P.24)

(FS 30・30Mのノベル面は、機能の配置が一部異なりますが、内容はFS 30Aと同じです。)



マスターボリューム (P.4)

パワースイッチ (P.4)

レスポンスファースト (P.16)

ラムパック (P.30)

リバーブ (P.16)

サステイン (P.15)

プレイアシスト (P.26)



(音色の数と内容はFS-30Aと異なりますが、各機能の配置は同じです。)

ご使用上の注意



必ず、AC100Vのコンセントから電源を。

大型クーラーやセントラルヒーティングの電圧は、AC(交流)200Vのものがあります。誤って接続すると大変危険ですので、充分ご注意ください。また、船舶などでは、DC(直流)電源を使用している場合がありますので、よくお確かめください。



電源プラグの抜いに注意。

ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。また、コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜くときは、電源プラグ自体を持って抜いてください。



スライドぶた、譜面板の取扱いについて。

スライドぶたを開けるときは、手前を少し持ち上げ、手に持ったまま静かに押し込みます。指や物を巻き込まないように注意してください。また、スライドぶたの上には重い物を乗せないでください。譜面板を上げ下げするときも、しっかりと持ち、手をはさまないように気をつけてください。(FS-30Mの譜面板は、椅子の中に収納されています。)



エレクトーンの内部には、絶対ふれないで。

エレクトーンの改造や部品の取りはずしは、大変危険ですので、絶対におやめください。故障だと思われる場合は、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



内部に水が入った場合は。

誤まって水などをかけ、エレクトーンの内部に入ってしまった場合は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いた上で、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。



電源スイッチを切り忘れないように。

電源が入ったまま長時間放置すると、思わぬ事故の原因になることがありますので、使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。

目次

ページ

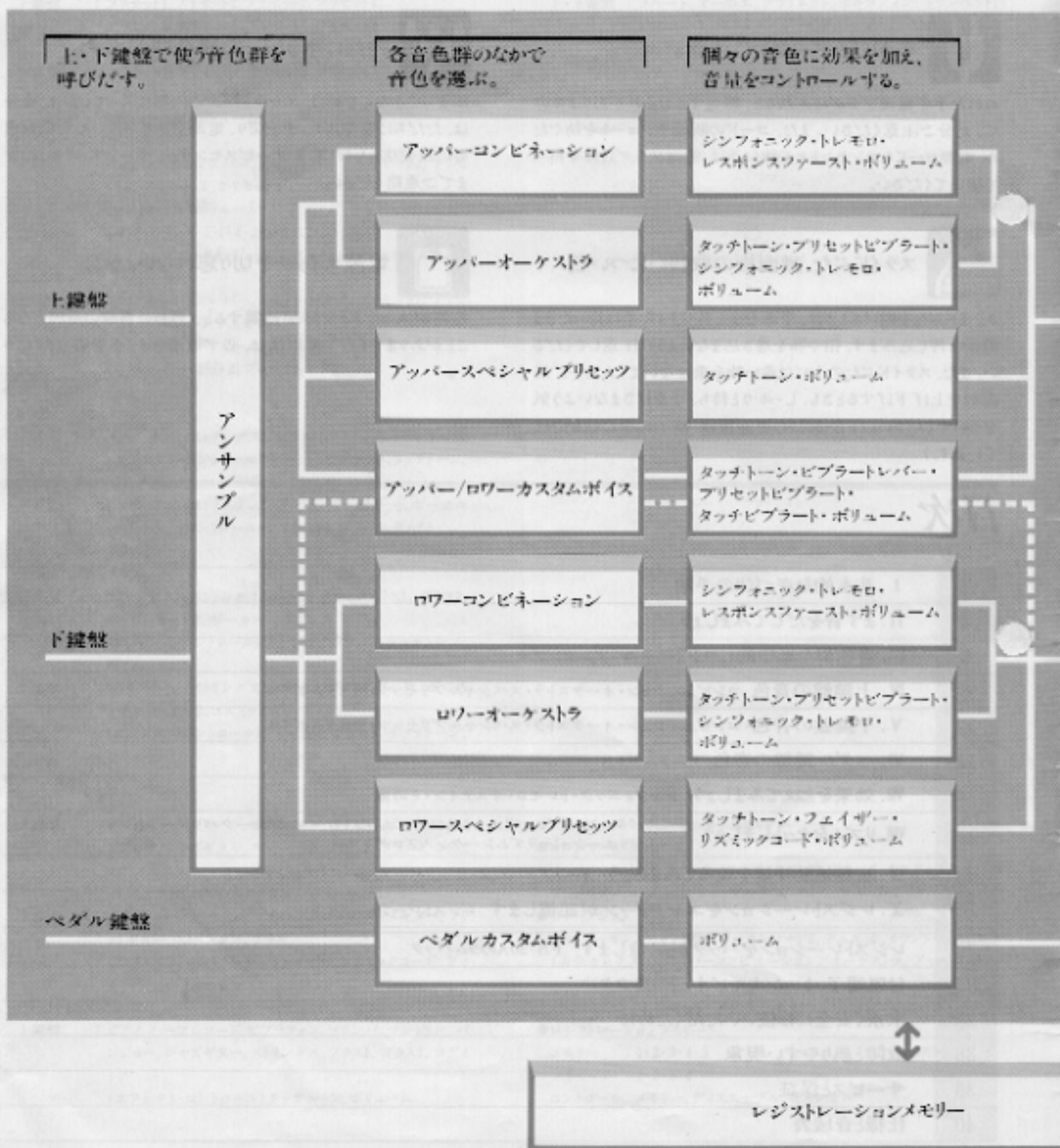
2	I. 基本的な音づくりの手順
4	II. まず音をだしてみよう
5	III. 音色群を集中的にコントロール アンサンブル
6	IV. 上鍵盤の音色 コンビネーション・オーケストラ・スペシャルプリセット・カスタムボイス
12	V. 下鍵盤の音色 コンビネーション・オーケストラ・スペシャルプリセット・カスタムボイス
13	VI. ペダル鍵盤の音色 カスタムボイス
14	VII. 効果を加えてみましょう シンフォニック・トレモロ・サステイン・その他
17	VIII. リズムをセットしましょう リズムパターン・リズムバリエーション・リズムコントロール・ブレイクバリエーション オートバリエーション・リズムシーケンスプログラマー
23	IX. 演奏補助機能を使ってみましょう オートアルペジオ・オートベース/コード・プレイアシスト
28	X. レジストレーションをエレクトーンが記憶します レジストレーションメモリー
30	レジストレーションをパックが記憶します FS-30Aのラムパック
34	付属端子・トーンキャビネットコネクター
35	末永く安全にお使いいただくために
36	故障と誤りやすい現象
38	サービスと保証
40	仕様と音域表

I. 基本的な音づくりの手順

意匠の土田 樹

FS-30A・FS-30・FS-30M・FS-20では、各鍵盤に豊富な音色が配置されています。特に上・下鍵盤では、それぞれ4つの音色群のなかから最高3つの音色を呼びだし、自由に組み合わせることができるため、幅広く多彩な音づくりが可能です。

各音色群のなかで音色を選んだ後は、別々に効果をかけて音の性格を強調し、音量のバランスをコントロールします。このとき、タッチトーンをセットすれば、タッチコントロール機能が働くようになり、指先の強弱によって音量・音色に変化をつけることができます。



さらに、各鍵盤ごとに効果などを加え、必要に応じてリズムセクション、演奏補助機能をセットすれば、音づくりが完成します。そして、これらのレジストレーションは、あらかじめメモリーしておくことができ、演奏中の切り換えもスピーディに行えますから、鍵盤での音楽表現に集中することができます。

★各鍵盤の発音数

- 上・下鍵盤……………両方の鍵盤を合わせて、最高12音。
(カスタムボイスは1音)。
- ペダル鍵盤……………1音。

鍵盤ごとに効果などを加える。

必要に応じて、リズム、演奏補助機能をセットする。

3チャンネルサウンドシステム

(上鍵盤)
アッパーサステイン

上鍵盤の音色

オートリズム

- リズムパターン16×4
- ブレーク/リエーション
- オートバリエーション
- リズムシーケンスプログラマー
(FS-30A・FS-30・FS-30M)

(上・下鍵盤)
リバーブ
グライド
マニュアルバランス

下鍵盤の音色

演奏補助機能

- オートアルペジオ
- オートベース/コード
- プレイアシスト

(下鍵盤)
ロワーサステイン

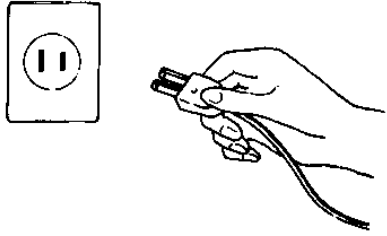
(ペダル鍵盤)
ペダルサステイン

ペダル鍵盤の音色

ラムパック(FS-30A)

II. まず音をだしてみよう

- 1 電源プラグをコンセントにさしこむ。



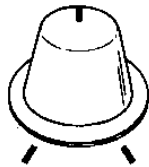
- 2 パワースイッチ(POWER)を押し、電源を入れる。

パイロットランプが点灯します。



- 3 音量つまみ(MASTER VOLUME)を中央ぐらいにセット。

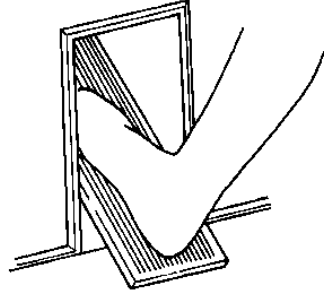
このつまみでエレクトーン全体の音量が調節できます。



MASTER VOLUME

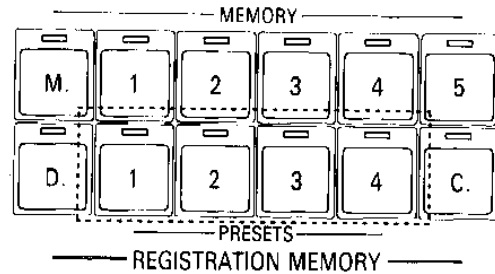
- 4 エクスプレッションペダルを踏みこむ。

これもエレクトーン全体の音量をコントロールするもので、演奏しながら音に強弱をつけることができます。



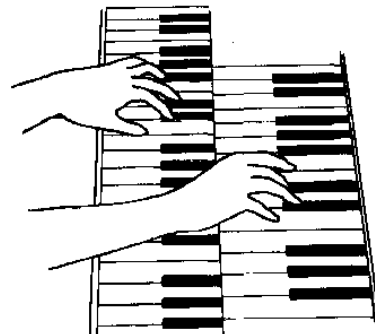
- 5 音色をセット。

ここでは、REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)を使って音色をセットしてみましょう。PRESETS(プリセット)の4つのボタンのうち、ひとつを押してください。上鍵盤・下鍵盤・ペダル鍵盤の音色、音量などがあらかじめ記憶されていますから、ボタンをひとつ押すだけで、各鍵盤の音色が自動的にセットされます。(詳しくは28ページを参照してください。)

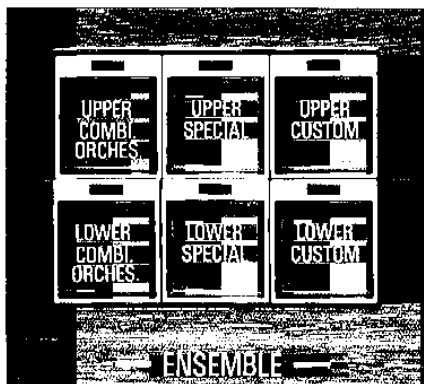


- 6 鍵盤を弾いてみましょう。

右手で上鍵盤、左手で下鍵盤、左足でペダル鍵盤をそれぞれ弾いてください。右足ではエクスプレッションペダルを操作します。



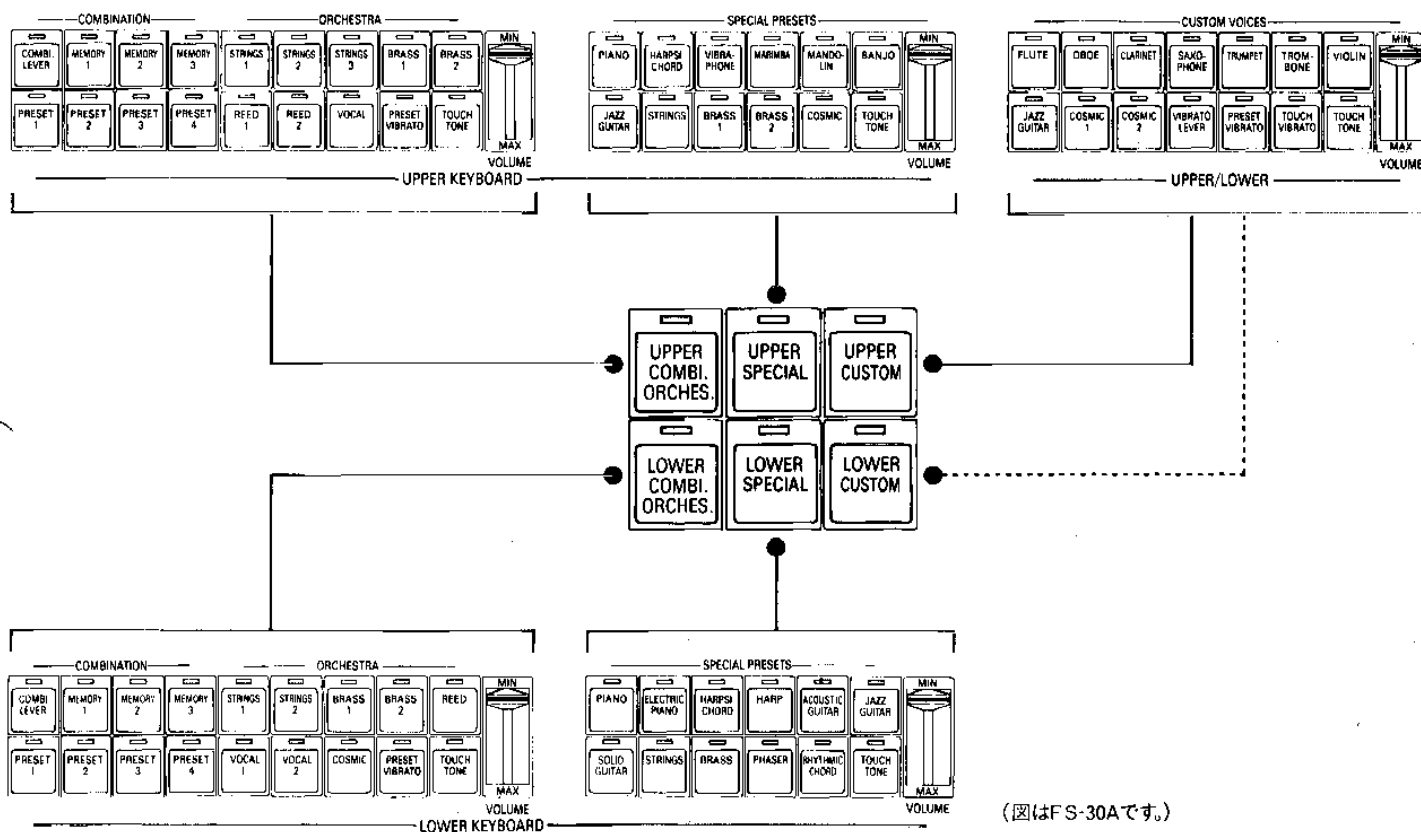
Ⅲ.音色群を集中的にコントロール



ENSEMBLE アンサンブル

アンサンブルは、上鍵盤と下鍵盤の音色群のなかから、演奏に使う音色群を選択するセクションです。必要な音色群のボタンを押すだけで、音色群が呼びだされ、音色を自由に組み合わせることができます。キャンセルしたいときは、もう一度ボタンを押してください。

下の図に示したように、上段が上鍵盤の音色群、下段が下鍵盤の音色群に対応しており、それぞれの鍵盤でひとつから3つまで音色群を呼びだすことができます。このように上鍵盤と下鍵盤の音色群を集中的にコントロールできますから、演奏中でもレジストレーションの変更が素早く行えます。



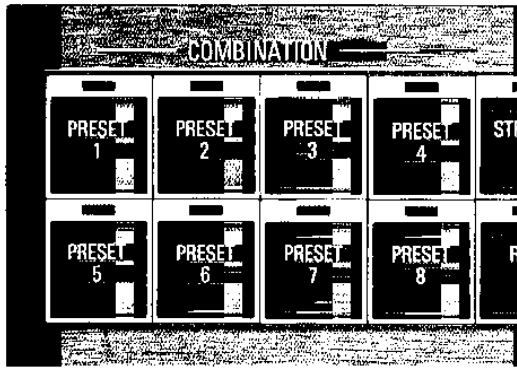
★コンビネーションとオーケストラの音色群は、ひとつのボタンで呼びだすようになっています。

★アッパー/ローカスタムボイスを使う場合は、上鍵盤に呼びだすか、下鍵盤に呼びだすかを選択するようになっています。

★次のページから、音色、効果などの説明に入りますが、REGISTRATION MEMORY (レジストレーションメモリー)のC. (キャンセル)のボタンを押してから各操作を行ってください。

IV. 上鍵盤の音色

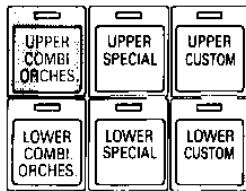
(FS-20)



COMBINATION コンビネーション(FS-20)

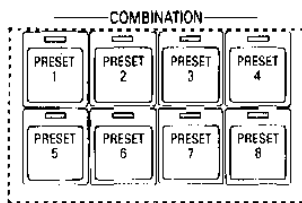
FS-20のコンビネーションは、8種類のオルガンサウンドがプリセットされている音色群です。ボタンを押すだけでいろいろなオルガンサウンドが得られ、とても操作しやすくなっています。それでは、実際に音をだしてみましょう。

- ① アンサンブルセクションのUPPER COMBI./ORCHES. (アッパーコンビネーション/オーケストラ) のボタンを入れ、音色群を呼びだす。



— ENSEMBLE —

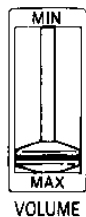
- ② 8つのボタンのなかから、ひとつをON。



PRESET 1: 8+4
 PRESET 2: 8+16
 PRESET 3: 4+16
 PRESET 4: 16+8+4+2+1
 PRESET 5: ジャズオルガン
 PRESET 6: ジャズオルガン
 PRESET 7: チャーチオルガン
 PRESET 8: シアターオルガン

いずれかひとつを押します。

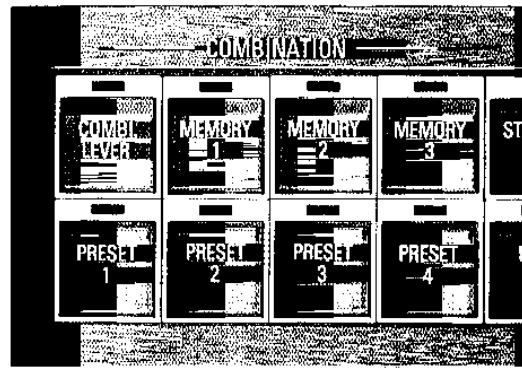
- ③ VOLUME(ボリューム)のスライダーをセット。



↑(MIN側)にセットすると音量は小さくなり、
 ↓(MAX側)にスライドさせるほど大きくなります。

以上のようにセットして上鍵盤を弾くと、②で選んだ音色が得られます。

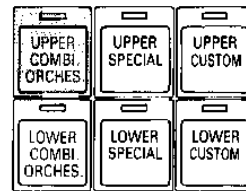
(FS-30A)



COMBINATION コンビネーション (FS-30A・30・30M)

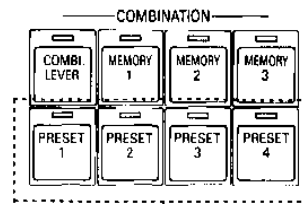
FS-30A・FS-30・FS-30Mのコンビネーション音色群では、プリセットされている4種類のオルガンサウンドのほかに、さまざまなオルガンサウンドを自分でセットし、それをメモリーしておくことができます。それではまず、プリセットされている音色をだしてみましょう。

- ① アンサンブルセクションのUPPER COMBI./ORCHES. (アッパーコンビネーション/オーケストラ) のボタンを入れ、音色群を呼びだす。



— ENSEMBLE —

- ② 4つのボタンのうち、ひとつをON。



PRESET 1: ジャズオルガン
 PRESET 2: ジャズオルガン
 PRESET 3: チャーチオルガン
 PRESET 4: シアターオルガン

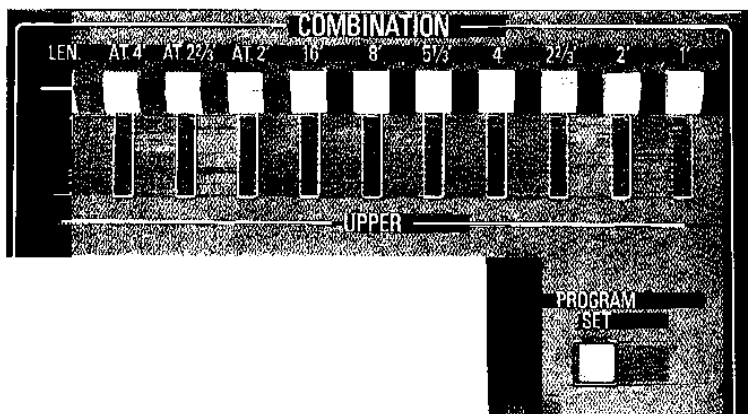
いずれかひとつを押します。

- ③ VOLUME(ボリューム)のスライダーをセット。

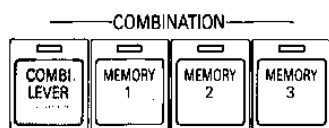


↑(MIN側)にセットすると音量は小さくなり、
 ↓(MAX側)にスライドさせるほど大きくなります。

以上のようにセットして上鍵盤を弾くと②で選んだプリセット音色が得られます。



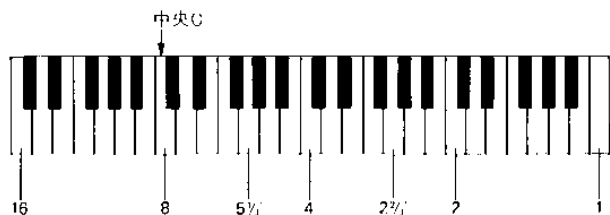
●レバーによる音色のセット



COMBI. LEVER (コンビネーションレバー)のボタンを選んでいるときには、下鍵盤の左側のパネルにあるレバーでセットした音色が得られます。レバーは、上鍵盤用のUPPER(アッパー)、下鍵盤用のLOWER(ロワー)に分かれていて、アッパーには、コンビネーションレバーのほかにもアタックのレバーも用意されています。それぞれのレバーにはクリックストップが設けられていますから、個々の音量を細かくセットでき、微妙な音づくりが可能です。

コンビネーションレバー：任意のレバーを組み合わせてセットすることで、さまざまなオルガンサウンドが作りだせます。レバーの上に表示されている8'(8フィート)4'(4フィート)などの数字は、パイプオルガンのパイプの長さ由来のもので、それぞれの音程を示しています。

(中央Cをおさえたとき、それぞれのレバーで得られる音程)



アタックレバー・アタックレングスレバー：アタック音は、立ち上がりがかたく、かたい感じのする減衰音です。コンビネーションレバーと一緒にセットすると、歯切れのよいサウンドが作りだせます。左端のアタックレングスレバーは、アタック音の減衰時間をコントロールするもので、手前に引くほど、消えるまでの時間が長くなります。

●レバーの組み合わせをメモリーする操作

MEMORY 1・2・3(メモリー1・2・3)のボタンには、コンビネーションレバー、アタックレバーの組み合わせを、あらかじめメモリーしておくことができます。したがって、演奏中でもレバーをセットしなすことなく、思い通りの音色がワンタッチで取りだせます。

1. アンサンブルセクションのUPPER COMBI./ORCHES. (アッパーコンビネーション/オーケストラ)のボタンを入れる。

2. COMBI.LEVER(コンビネーションレバー)のボタンを入れ、コンビネーションレバーおよびアタックレバーをセット。

上鍵盤で音をだしながらレバーの組み合わせを決めてください。

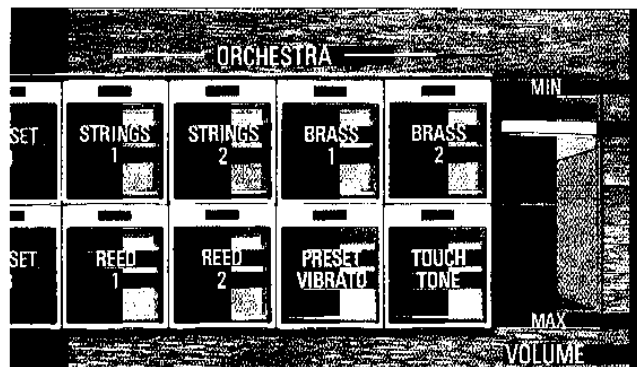
3. PROGRAM SET(プログラムセット)のボタンを押しながら、メモリーのボタンをON。

いずれかひとつをONするとランプが点滅します。

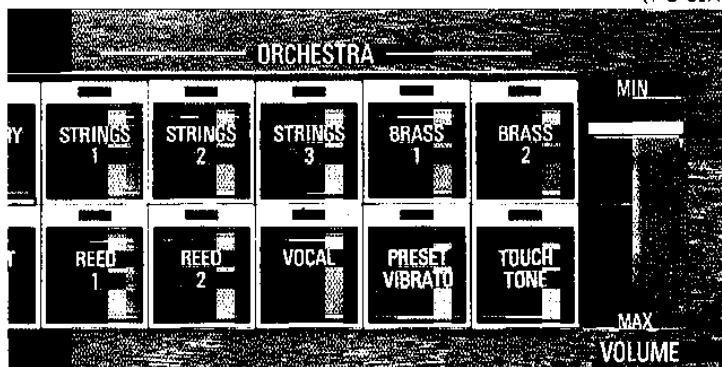
以上の操作をすると、押したメモリーボタンのインジケータラランプが点滅し、そのボタンにメモリーされたことを示します。

★いったんメモリーした情報は、電源を切っても消えることはありません。また、新しい組み合わせを同じボタンにメモリーすると、前にメモリーしていた情報は自動的に消えます。

(FS-20)



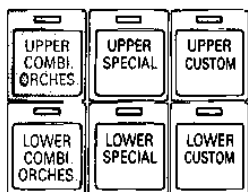
(FS-30A)



ORCHESTRA オーケストラ

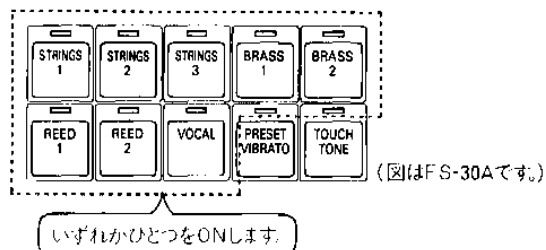
オーケストラは、複数の楽器で合奏しているような、厚みのあるサウンドが得られる音色群です。主にストリングスやブラスなど、オーケストラで使われる楽器音が用意されており、ひとつひとつの音色には、それぞれにふさわしい効果や、あらかじめ組み込まれています。また、鍵盤タッチによって音量・音色を微妙にコントロールしたり、選んだ音色にビブラートを単独でかけたりすることもできます。それでは、実際に音をだして聴きくらべてみましょう。

- ① アンサンブルセクションのUPPER COMBI./ORCHES. (アッパーコンビネーション/オーケストラ) のボタンを入れ、音色群を呼びだす。



— ENSEMBLE —

- ② 音色をひとつ選ぶ。



- ③ VOLUME(ボリューム)のスライダーをセット。

このようにセットして上鍵盤を弾くと、②で選んだ音色が得られます。

★コンビネーションとオーケストラの音色群は、どちらかを選択してお使いください。上鍵盤で両方を同時に使うことはできません。

★オーケストラ音色には、音色を選ぶと、シンフォニック効果が自動的に入るものがあります。

● TOUCH TONE(タッチトーン)



このボタンを入れると、鍵盤のタッチによって、音量と音色が微妙にコントロールできるようになります。オーケストラ音色では、アフタータッチコントロールが可能です。

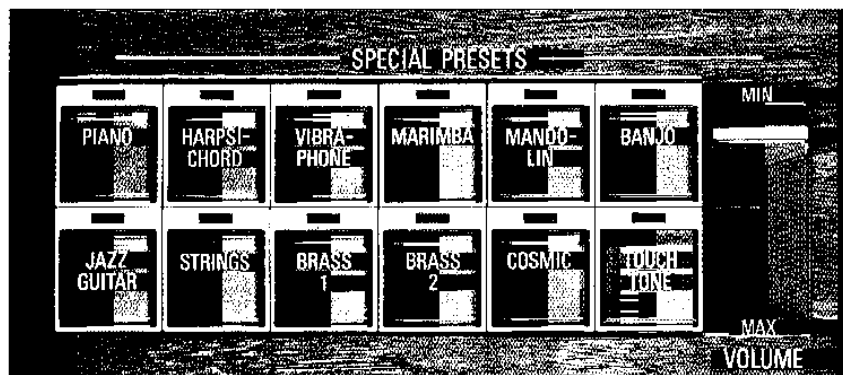
アフタータッチコントロールとは、鍵盤をおさえた後、さらに鍵盤をおさえつけることによって、音量・音色に変化をつけるもので、強くおさえつけるほど音量は大きくなり、音色は豊かさや厚みを増します。

音量・音色の変化する度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。また、演奏する音域によっても変化する度合は変わります。より表情豊かで、センシティブな演奏表現をお試しください。

● PRESET VIBRATO(プリセットビブラート)



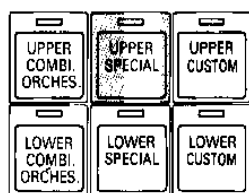
このボタンを入れると、そのとき選んでいるオーケストラ音色にビブラート効果がかかります。ビブラートのデプス(深さ)、スピード(速さ)、ディレイ(ビブラートがかかり始めるまでの遅れ時間)は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。



SPECIAL PRESETS スペシャルプリセット

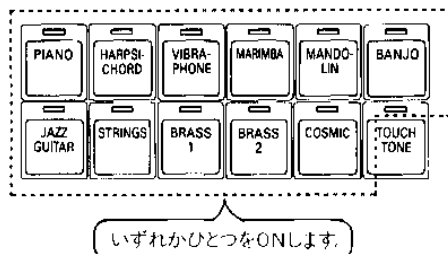
スペシャルプリセットは、ピアノやビブラフォンなど、さまざまな楽器音を得られる音色群です。ピアノ、ハープシコードの自然な減衰や、マリンバ、マンドリンの歯切れのよいリピートなど、それぞれの楽器がもっている特徴をリアルに再現します。また、鍵盤のタッチによって、音量・音色を微妙にコントロールすることができます。それでは、実際に音をだしてみましょう。

① アンサンブルセクションのUPPER SPECIAL (アッパースペシャルプリセット)のボタンを入れ、音色群を呼びだす。



— ENSEMBLE —

② 音色を選ぶ11のボタンのなかから、ひとつをON。



③ VOLUME(ボリューム)のスライダーをセット。

このようにセットして上鍵盤を弾くと、②で選んだ音色が得られます。

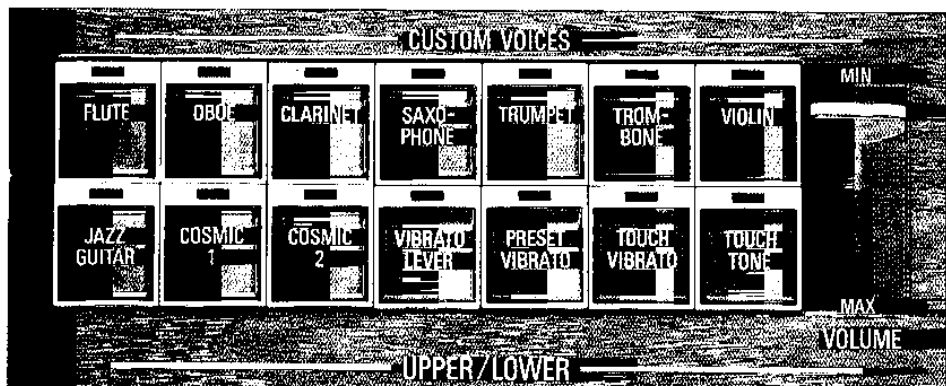
● TOUCH TONE(タッチトーン)



このボタンを入れると、鍵盤のタッチによって、音量と音色が微妙にコントロールできるようになります。スペシャルプリセット音色では、イニシャルタッチコントロールが可能です。これは、鍵盤をたたくときの速さ・強さによって音量・音色をコントロールするもので、速く、強くたたくほど立ち上がりの音量が大きくなり、音色もさまざまに変化します。

なお、音量・音色の変化する度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。また、演奏する音域によっても変化する度合は変わります。

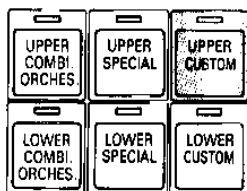
★ MARIMBA (マリンバ) 音色を選んでいるとき、2つ以上の音を同時におさえると、ツインマレット効果が得られます。2音おさえると、高音と低音が交互にくり返され、3音以上おさえると、最高音1音と低音部が交互にくり返し発音されます。



CUSTOM VOICES カスタムボイス

カスタムボイスは、さまざまな楽器音が単音で得られる音色群です。管楽器などに特有の自然な音の表情をもつため、大変リアルな響きが得られます。また、鍵盤タッチによって音量・音色、およびビブラートをコントロールしたり、ビブラートを単独でかけたりすることができます。それでは、実際に音をだしてみましょう。

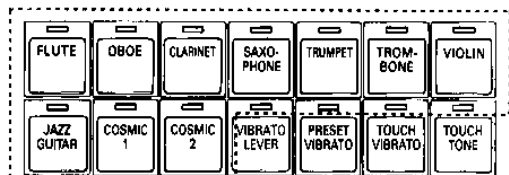
- ① アンサンブルセクションのUPPER CUSTOM (アッパーカスタムボイス)のボタンを入れ、音色群を呼びだす。



アッパー/ロワーカスタムボイスを呼び出す場合は、上鍵盤で使うか下鍵盤で使うかを選択します。

— ENSEMBLE —

- ② 音色を選ぶ10のボタンのなかから、ひとつをON。



いずれかひとつをONします

- ③ VOLUME(ボリューム)のスライダーをセット。

このようにセットして上鍵盤を弾くと、②で選んだ音色が得られます。

★アッパー/ロワーカスタムボイスは、同時に1音しか発音しません。他の音色群と組み合わせているときは、複数の音を同時におさえると、最高音1音のみが発音されます。また、他の音色群と組み合わせずに単独で使ったときは、一番後でおさえた1音が優先的に発音されます。

★音色によっては、スライド効果(ホルタメント)などが、あらかじめ組み込まれています。

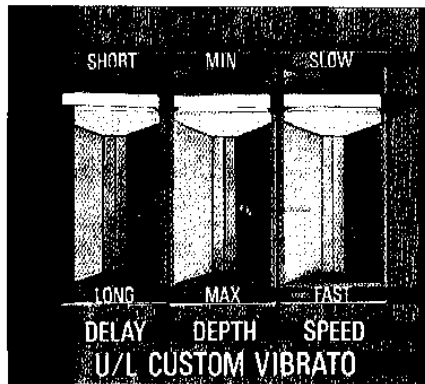
●TOUCH TONE(タッチトーン)



このボタンを入れると、イニシャルタッチとアフタータッチによって、カスタムボイスの音量・音色が微妙にコントロールできます。イニシャルタッチコントロールは、鍵盤をたたくときの速さ・強さでコントロールするもので、速く、強くたたくほど立ち上がりの音量が大きくなり、音色もさまざまに変化します。

アフタータッチコントロールは、鍵盤をおさえた後、さらにおさえつけてコントロールするもので、強くおさえつけるほど音量が大きくなり、音色は豊かさと厚みを増します。

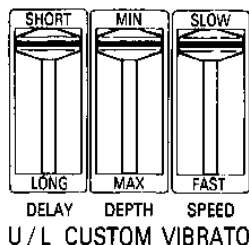
なお、音量・音色の変化する度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされており、音域によっても変化する度合は変わります。



●VIBRATO LEVER(ビブラートレバー)



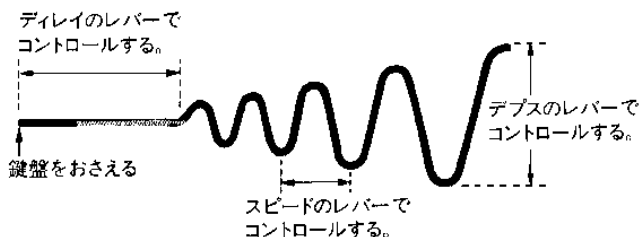
このボタンを入れると、そのとき選んでいるカスタムボイス音色に、自分でセットしたビブラートをかけることができます。ビブラートのかかり方は、上鍵盤の左のパネルにあるU/L CUSTOM VIBRATO(U/L カスタムビブラート)の3つのレバーでコントロールします。



DEPTH(デプス) : ビブラートの深さをコントロールするレバーで、手前に引くほどビブラートが深くかかります。

SPEED(スピード) : ビブラートの速さをコントロールするレバーで、手前に引くほどビブラートが速くなります。

DELAY(ディレイ) : 鍵盤をおさえてからビブラートがかかり始めるまでの時間をコントロールするレバーで、手前に引くほどかかりはじめるまでの時間が長くなります。



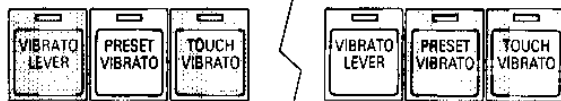
★スピードのレバー、またはディレイのレバーをセットしただけではビブラートはかかりません。必ずデプスのレバーを最初にセットしてください。

●PRESET VIBRATO(プリセットビブラート)



このボタンを入れると、そのとき選んでいるカスタムボイス音色に、あらかじめエレクトーンに組み込まれているビブラートがかかります。ビブラートのデプス(深さ)、スピード(速さ)、ディレイ(ビブラートがかかりはじめるまでの遅れ時間)は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。

●TOUCH VIBRATO(タッチビブラート)

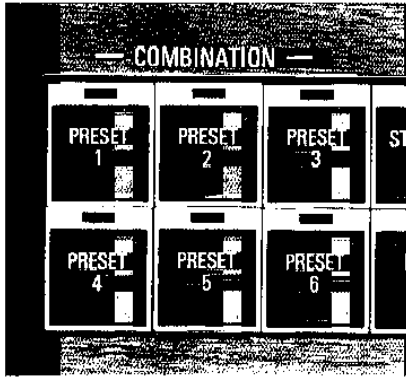


ビブラートレバーまたはプリセットビブラートのボタンを入れるとき、TOUCH VIBRATO(タッチビブラート)のボタンを一緒に入れると、鍵盤のタッチによってビブラートのデプスがコントロールできるようになります。これは、鍵盤をおさえたあと、さらにおさえつけるアフタータッチによってコントロールするもので、強くおさえつけるほどビブラートのデプスが深くなります。

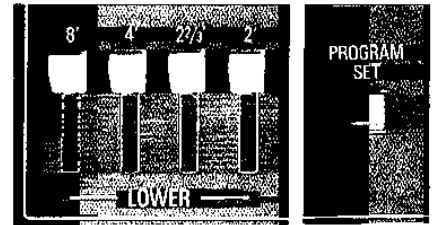
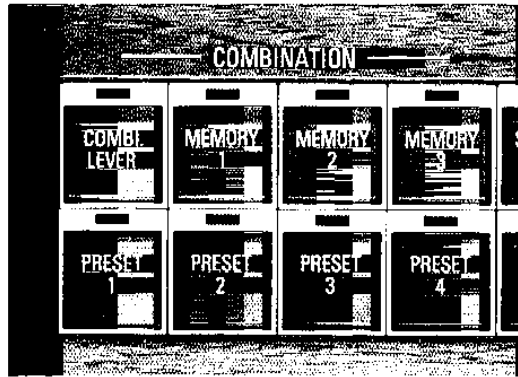
なお、ビブラートレバーのボタンと一緒に入れた場合は、デプスレバーでセットした深さまでビブラートをコントロールすることができ、ビブラートの速さはスピードレバーでセットした速さが得られます。また、プリセットビブラートのボタンと一緒に入れた場合は、プリセットされている深さまでビブラートをコントロールすることができます。

V. 下鍵盤の音色

(FS-20)



(FS-30A)



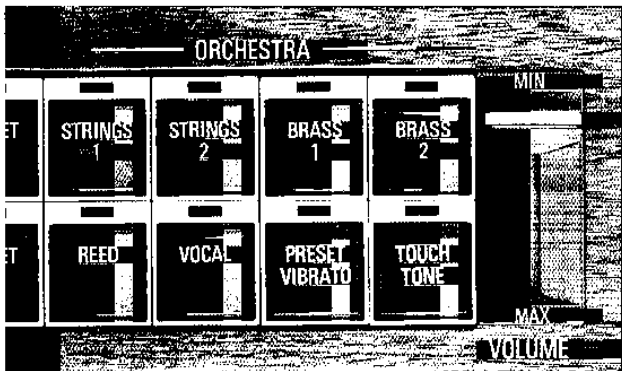
COMBINATION コンビネーション

さまざまなオルガンサウンドが得られる音色群で、アンサンブルセクションのLOWER COMBI./ORCHES. (ローコンビネーション/オーケストラ) のボタンによって呼びだします。

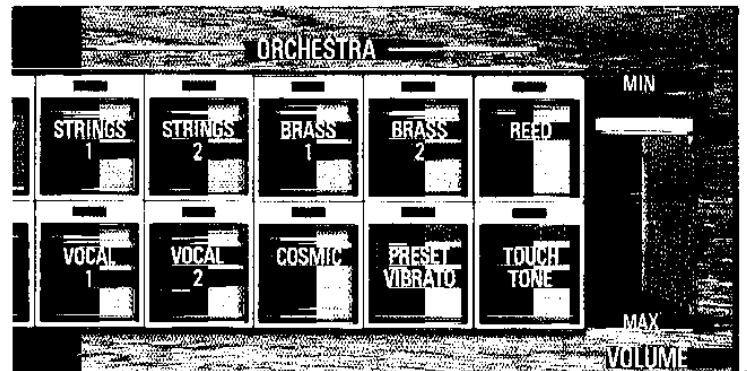
FS-20では、6種類のオルガンサウンドがプリセットされており、ボタンを押すだけで簡単に得ることができます。

FS 30A・FS 30・FS 30Mでは、プリセットされている4種類のオルガンサウンドのほかに、コンビネーションレバーを組み合わせ合わせてオリジナルのオルガンサウンドをつくり、それをメモリーしておくことができます。メモリーの操作などは、上鍵盤のコンビネーションに準じます。(7ページを参照してください。)

(FS-20)



(FS-30A)

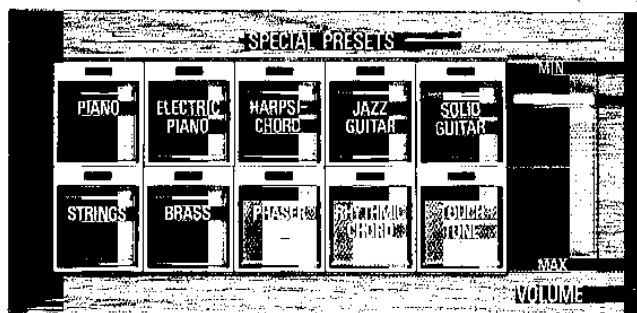


ORCHESTRA オーケストラ

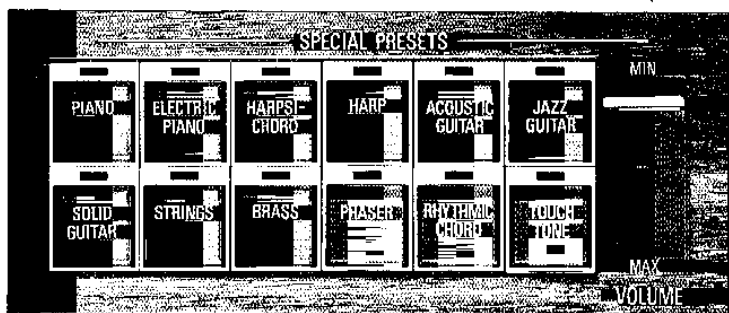
ストリングスやブラスなど、複数の楽器で合奏しているようなサウンドが得られる音色群で、アンサンブルセクションのLOWER COMBI./ORCHES. (ローコンビネーション/オーケストラ) のボタンによって呼びだします。TOUCH TONE(タッチトーン)、PRESET VIBRATO(プリセットビブラート)の動きは、上鍵盤のオーケストラ音色と同じです。

★コンビネーションとオーケストラ音色群は、どちらかを選択してお使いください。下鍵盤で両方を同時に使うことはできません。

(FS-20)



(FS-30A)



SPECIAL PRESETS スペシャルプリセット

ピアノやハーブシコードなどの楽器音がプリセットされている音色群で、アンサンブルセクションのLOWER SPECIAL (ロースペシャルプリセット)のボタンで呼びだします。TOUCH TONE (タッチトーン)の働きは、上鍵盤のスペシャルプリセット音色と同じです。

●PHASER(フェイザー)



フェイザーとは、音にゆるやかな回転感と広がりをもたせ、独特の響きにする効果です。これは、音の位相を時間的に変化させるもので、ボタンを入れるだけで、下鍵盤のスペシャルプリセット音色に効果を加えることができます。お好みに応じてセットしてください。

●RHYTHMIC CHORD(リズムックコード)

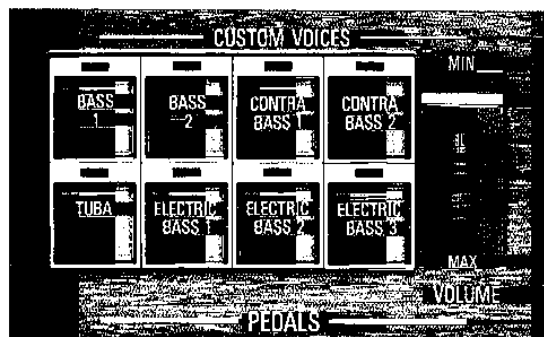


このボタンを入れると、そのとき選んでいる下鍵盤のスペシャルプリセット音色が、リズムに連動してきざまれるようになります。各リズムパターンにふさわしいカッティング伴奏が自動的に得られ、多彩な効果を生み出すことができます。なお、リズムックコードはリズムに連動して働きますから、必ずオートリズム (17ページ参照)をスタートさせてください。

CUSTOM VOICES カスタムボイス

アンサンブルセクションのLOWER CUSTOM (ローカスタムボイス)のボタンを入れると、アッパー/ローカスタムボイス音色が下鍵盤で得られます。なお、下鍵盤で呼びだしているときは、上鍵盤で呼びだすことはできません。(10ページを参照してください。)

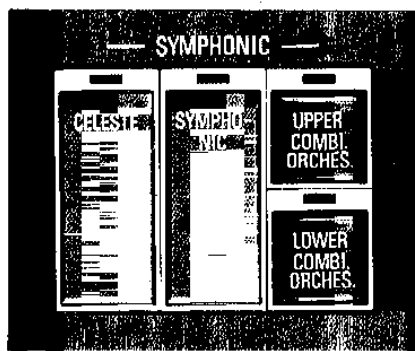
VI.ペダル鍵盤の音色



CUSTOM VOICES カスタムボイス

ペダル鍵盤用の音色群で、オルガン系のバス音色のほか、コントラバスやエレクトリックベースなどの音色がプリセットされています。上・下鍵盤の音色群とちがいで、アンサンブルセクションのボタンを入れる必要はなく、音色セレクトボタンとボリュームスライダーの操作だけで音をだすことができます。

VII. 効果を加えてみましょう



SYMPHONIC シンフォニック

数多くの楽器で合奏しているような多重感をもたせ、音に豊かな広がりを与える効果です。シンフォニックとセレステの2種類の効果があり、上・下鍵盤のコンビネーション音色とオーケストラ音色にかけることができます。

- ① SYMPHONIC(シンフォニック)のボタンとCELESTE(セレステ)のボタンのどちらかを選ぶ。



シンフォニック：豊かなひろがりのある効果が得られます。
セレステ：シンフォニックよりゆったりとしたかかき方の効果が得られます。

- ② 効果をかける音色群のボタンをON。

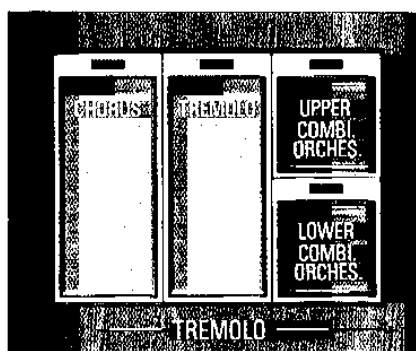


上が上鍵盤のコンビネーション/オーケストラの音色群、下が下鍵盤のコンビネーション/オーケストラの音色群のボタンになっており、両方のボタンを同時にセットすることもできます。

★音色によっては、音色を選んだだけで、シンフォニック効果が自動的にかかるようになるものがあります。あえて効果をかかたくない場合は、ONになっている音色群のボタンを押せばキャンセルできます。

★同じ音色群に、シンフォニック効果(シンフォニック、セレステ)とトレモロ効果(トレモロ、コーラス)を同時にかけることはできません。例えば、シンフォニック効果を上鍵盤のオーケストラ音色にかけ、トレモロ効果を下鍵盤のコンビネーション音色にかけるというように、組み合わせてください。

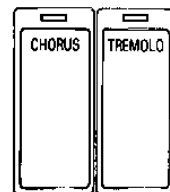
★シンフォニックとセレステのボタンは、必ずどちらかがONになっています。



TREMLO トレモロ

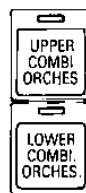
音にうねりをもたせ、うるおいと広がりのある響きにする効果です。トレモロとコーラスの2種類の効果があり、上・下鍵盤のコンビネーション音色とオーケストラ音色にかけることができます。

- ① TREMLO(トレモロ)のボタンとCHORUS(コーラス)のボタンのどちらかを選ぶ。



トレモロ：音がうねり、独特の広がり感が得られます。
コーラス：トレモロよりゆづりとうねり、回転しているような感じが得られます。

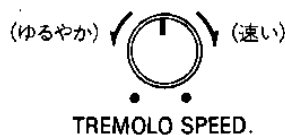
- ② 効果をかける音色群のボタンをON。



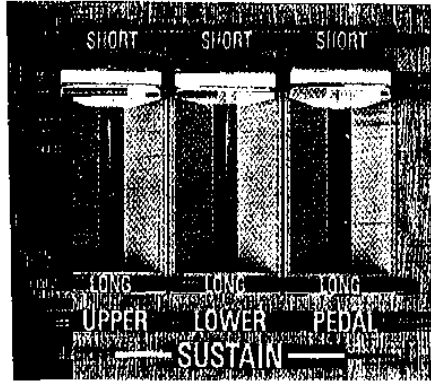
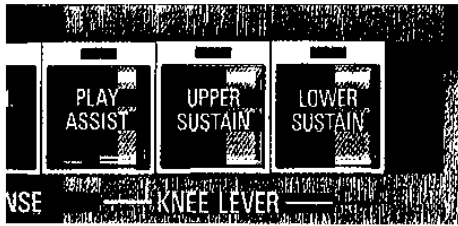
上が上鍵盤のコンビネーション/オーケストラの音色群、下が下鍵盤のコンビネーション/オーケストラの音色群のボタンになっており、両方のボタンを同時にセットすることもできます。

TREMLO SPEED(トレモロスピード)

TREMLO(トレモロ)のボタンを選んでいるときは、上鍵盤と下鍵盤の間のパネルにあるつまみでうねりの速さを微妙にコントロールすることができます。中央の位置が普通の状態ですが、右に回すとうねりが速くなり、左に回すとうねりがゆるやかになります。



TREMLO SPEED.

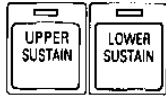


SUSTAIN サステイン

鍵盤から指や足を離した後、音に余韻をもたせ、自然に減衰させる効果です。2つのボタンと3つのスライダーの操作によって、3つの鍵盤の音に、それぞれ効果をかけることができます。また、上・下鍵盤のサステインは、ニーレバーによってコントロールすることができます。

① UPPER SUSTAIN(アッパーサステイン)、LOWER SUSTAIN(ローサステイン)のボタンをON。

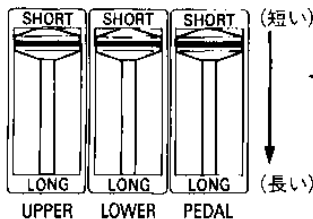
上鍵盤の音にサステインをかけたいときに押します



下鍵盤の音にサステインをかけたいときに押します。

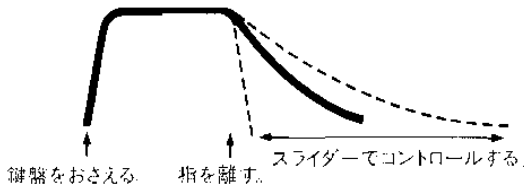
ペダル鍵盤の音色にサステインをかけるときは、ボタンを押す必要はありません。

② UPPER(アッパー)、LOWER(ロー)、PEDAL(ペダル)のスライダーで、サステインの長さをコントロール。



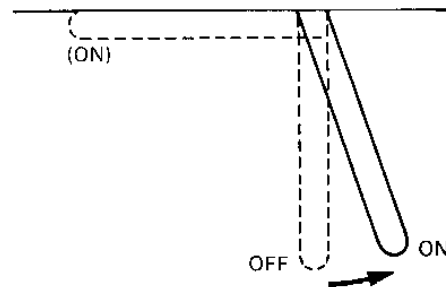
一番奥にセットされているとサステインはかからず、手前に引くほど長いサステインが得られます。

(コンビネーション音色にサステインをかけた場合)



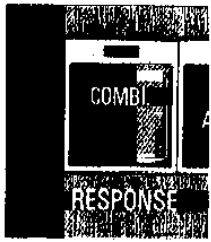
●ニーレバーコントロール

上・下鍵盤のサステインは、ニーレバーを使うことで、演奏中でも任意にコントロールすることができます。まず、サステインのボタンとスライダーをセットして、ニーレバーを真下に立てておきます。演奏中にサステインをかけたいところへきたら、ニーレバーを右ひびぎで右に押ししてください。押しつけている間だけサステインがかかります。



★アッパー/ローカスタムボイス音色には、サステイン効果がかりません。

★音色によっては、スライダーをショート側にセットすると、サステイン効果がOFFのときより余韻が短くなるものがあります。



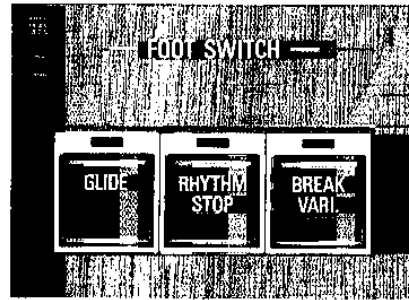
RESPONSE FAST レスポンスファースト

RESPONSE FAST(レスポンスファースト)のボタンを入れると、上・下鍵盤のコンビネーション音色の立ち上がりと減衰が早くなります。歯切れのよいオルガンサウンドをだしたいときにお使いください。



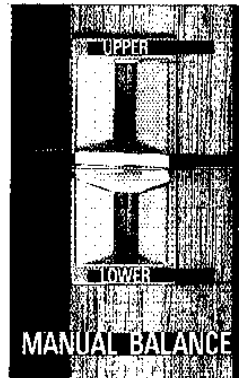
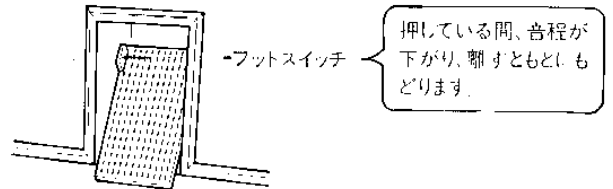
REVERB リバーブ

音に美しい残響をつけ、大きなホールで演奏しているような広がりのある響きにする効果です。この効果は上・下鍵盤の音にかけることができ、スライダーをMAX(最大)側にスライドさせるほど、長い残響が得られます。



GLIDE グライド

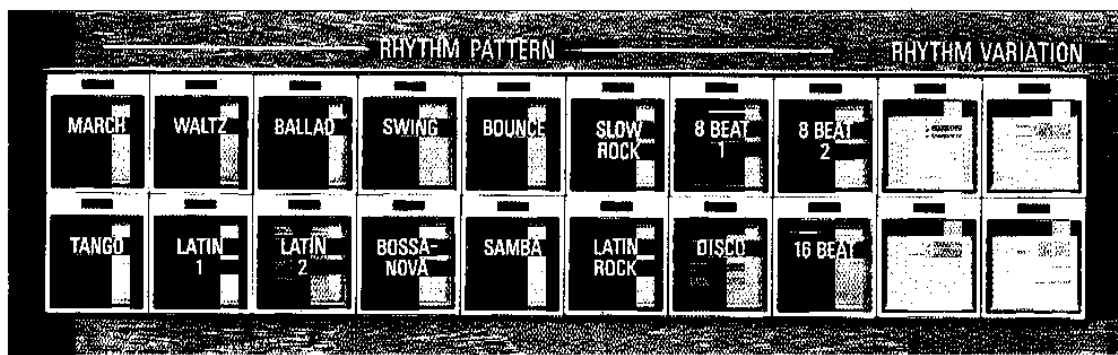
エクスプレッションペダルの左奥にあるフットスイッチを操作することで、上・下鍵盤の音程を、全体に約半音さげる効果です。GLIDE(グライド)のボタンを入れ、鍵盤をおさえたまま、フットスイッチを左に押すことで効果がかかります。フットスイッチを押しつけている間は、音程が約半音さがり、フットスイッチを離すと、音程はゆっくりとともにもどります。



MANUAL BALANCE マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量バランスをコントロールするスライダーです。UPPER(アッパー)側にセットすると下鍵盤の音量が小さくなり、LOWER(ロワー)側にセットすると上鍵盤の音量が小さくなります。

VIII. リズムをセットしましょう

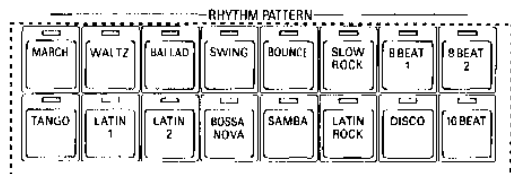


RHYTHM PATTERN リズムパターン

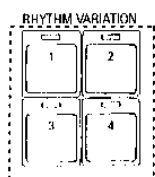
RHYTHM VARIATION リズムバリエーション

オートリズムでは、FWM音源方式の導入によって、実際の打楽器音にきわめて近い、リアルなリズム音が得られます。リズムパターンは16種類あり、それぞれに4つずつのバリエーションパターンが用意されています。それでは実際にリズム音をだしてみよう。

- ① 16のRHYTHM PATTERN(リズムパターン)の中から、ひとつをON。

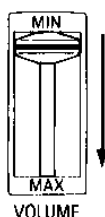


- ② 4つのRHYTHM VARIATION(リズムバリエーション)の中から、ひとつをON。

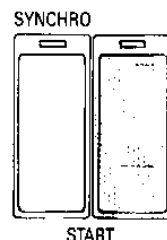


16のリズムパターンに対して、それぞれ4つのバリエーションがありますから、全部で64種類のパターンが選べます。

- ③ VOLUME(ボリューム)のスライダーをセット。



- ④ START(スタート)をON。

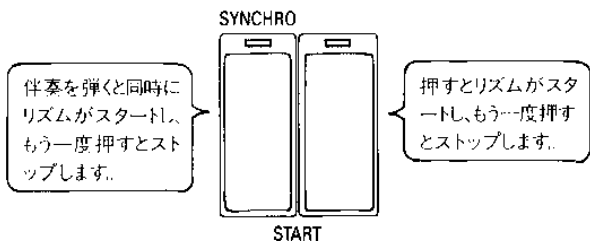


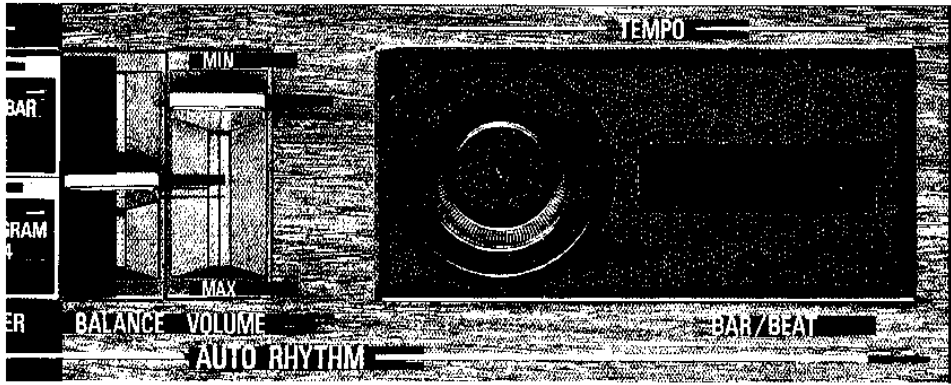
以上の操作をすれば、①・②で選んだリズムがスタートします。他のリズムパターンに変えて聴きくらべてみましょう。

- START(スタート)・SYNCHRO START(シンクロススタート)

右側のSTART(スタート)ボタンを入れると、リズムが第1拍目からスタートし、ボタンを切るとリズムはストップします。

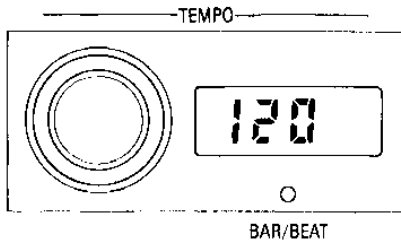
STARTのかわりに、SYNCHRO START(シンクロススタート)ボタンを入れると、下鍵盤、またはペダル鍵盤を弾くと同時に、リズムを第1拍目からスタートさせることができます。ボタンを切るとリズムはストップします。





リズムコントロール

●TEMPO(テンポ)



リズムの速さをコントロールするつまみで、右に回すと速くなり、左に回すとおそくなりますが、セットしたテンポは、デジタルディスプレイに数字で表示されます。

★デジタルディスプレイの下にあるインジケータランプは、セットしたテンポに合わせて点灯します。リズムがスタートしているときは、リズムの小節の1拍目ごとに点灯し、シンクrostartを入れてから下鍵盤またはペダル鍵盤をおさえるまでは、4分音符のタイミングで点灯します。

●BALANCE(バランス)



リズム音を構成している打楽器音のバランスをコントロールするスライダーです。中央の位置が普通の状態で、下にスライドさせると、リズムをキープしているメインの打楽器音が強調され、上にスライドさせると、それ以外の打楽器音が強調されます。

●デジタルディスプレイ

デジタルディスプレイでは、リズムセクションの使い方によって、リズムのテンポなど3種類の表示が得られます。

テンポ表示：リズムをスタートさせる前は、1分間に打つ4分音符の数で、リズムのテンポが表示されます。また、リズムをスタートさせた後にテンポを変えると、変更後のテンポが、バー/ビート表示に割り込んで、少しの間だけ表示されます。



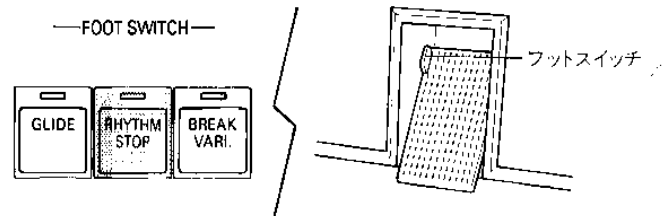
バー/ビート表示：リズムをスタートさせると、スタートしてからの小節数と、小節内の拍数が表示されます。



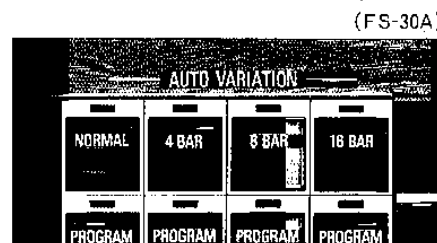
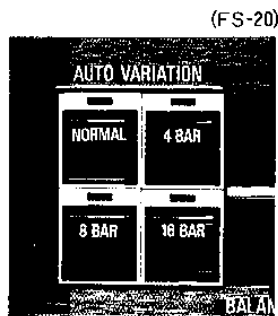
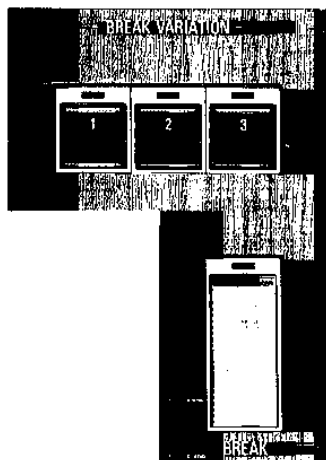
バー表示：リズムシーケンスプログラマーによって、リズムをメモリーしているときは、小節数だけの表示になります。(FS 30A・FS 30・FS 30Mのみ)



●RHYTHM STOP(リズムストップ)



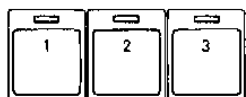
エクスプレッションペダルの左奥にあるフットスイッチを使えば、スタートボタンを押さなくても、リズムをストップさせることができます。まず、RHYTHM STOP(リズムストップ)のボタンを入れてから、リズムをスタートさせてください。リズムを止めたいところで、フットスイッチを左に押しすと、リズムはストップします。フットスイッチをもう一度押せば、リズムは再度スタートします。



BREAK VARIATION ブレークバリエーション

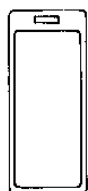
リズムをスタートさせているとき、一時的にリズムフィルインのパターンに切り換える機能です。フレーズの切れ目などに使えば、リズムにアクセントが付き、変化に富んだ演奏ができます。また、イントロとして使うこともできます。

- ① リズムパターンを選び、リズムをスタート。
- ② BREAK VARIATION(ブレークバリエーション)のボタンでパターンを選ぶ。



1・2・3のパターンは、16のリズムパターンによってそれぞれ異なりますから、全部で48種類のパターンが得られます。

- ③ 必要なところで、BREAK(ブレーク)のボタンをON。



押した瞬間から、ブレークバリエーションに切り換わります。

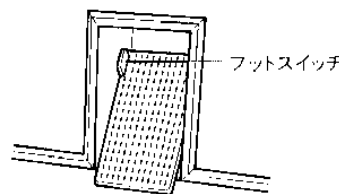
ブレークバリエーションは、ボタンを押した小節の終わりまで続き、次の小節からはもとのリズムパターンにもどります。2小節以上にわたってブレークバリエーションをだしたいときは、ボタンを押し続けてください。

●イントロのだし方

ブレークバリエーションでは、イントロをだすこともできます。まず、リズムパターンとブレークバリエーションのパターンを選び、BREAK(ブレーク)のボタンを押してから、START(スタート)のボタンでリズムをスタートさせてください。リズムがスタートする前に、選んだブレークバリエーションのパターンが、イントロとして1小節の間だけ得られます。

●フットスイッチによる切り換え

—FOOT SWITCH—



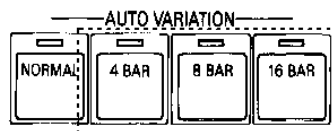
ブレークバリエーションへの切り換えは、フットスイッチでも行うことができます。まず、BREAK VARI. (ブレークバリエーション)のボタンを入れてから、リズムをスタートさせてください。演奏の途中でフットスイッチを左に押すと、パネル面のBREAK(ブレーク)のボタンを押さなくても、ブレークバリエーションが得られます。

★非常にまれなことでありますが、落雷などにより異常電圧が流れ、エレキトーンにメモリーされている情報が変わったり、パネル面が正常に機能しなくなる場合があります。その場合は、いったん電源スイッチを切り、BREAK(ブレーク)ボタンを押しながら、電源スイッチを入れてください。

AUTO VARIATION オートバリエーション

フレーズの切れ目で、リズムフィルインのパターンに自動的に切り換える機能です。リズムに一定の変化をつけたいときなどに便利です。

- ① リズムパターンとブレークバリエーションのパターンを選ぶ。
- ② 何小節目ごとに切り換えるかを決める。

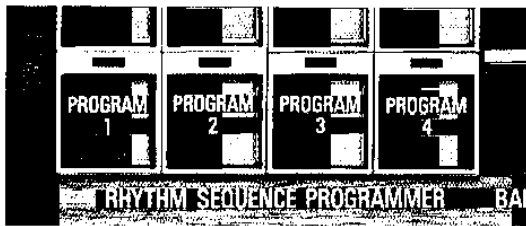


それぞれ4小節目ごと、8小節目ごと、16小節目ごとに切り換わります。

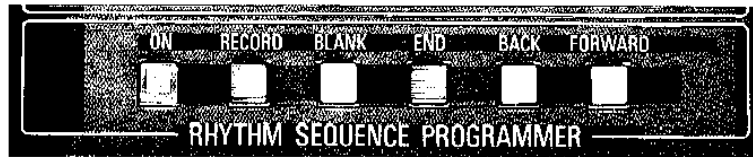
- ③ リズムをスタート。

すると、①で選んだブレークバリエーションのパターンが、②で選んだ小節目ごとに、1小節だけ切り換わります。

★NORMAL(ノーマル)のボタンは、オートバリエーションおよびPROGRAM(プログラム)のボタン(FS-30)をキャンセルする働きをします。



(FS-30A)



RHYTHM SEQUENCE PROGRAMMER リズムシーケンスプログラマー(FS-30A・30・30M)

さまざまなリズムの再生順序を、演奏する曲に合わせてメモリーしておける機能です。メモリーしたリズムを再生すれば、曲の構成や流れによって、リズムが自動的に切り換わります。

1 PROGRAM(プログラム)のボタンをON。

RHYTHM SEQUENCE PROGRAMMER

プログラムのボタンは、いわばメモリーバンクにあたり、リズムの再生順序はここに記憶されます。4つのボタンには、それぞれ最長64小節までのメモリーが可能です。

2 ON(オン)のボタンを押す。

ON(オン)のボタンが点灯し、リズムがメモリーできる状態になったことを示します。また、デジタルディスプレイの表示が[1]になり、これからメモリーするのが1小節目であることを示します。

3 リズムパターンをセット。

RHYTHM PATTERN								RHYTHM VARIATION	
MARCH	WALTZ	BALLAD	SWING	BOUNCE	SLOW ROCK	8 BEAT 1	8 BEAT 2	1	2
TANGO	LATIN 1	LATIN 2	BOSSA-NOVA	SAMBA	LATIN ROCK	DISCO	16 BEAT	3	4

16のリズムパターンと4つのリズムバリエーションを組み合わせることで、合計64種類のパターンがメモリーできます。

4 リズムをスタート。

SYNCHRO

START

START(スタート)のボタンを押せば、これからメモリーしようとするリズムをモニターすることができます。

5 RECORD(レコード)のボタンを押す。

ON RECORD BLANK END BACK FORWARD

1回押すごとに1小節ずつメモリーされます

レコードボタンを1回押すごとに、セットしているリズムパターンが1小節ずつメモリーされていきます。このレコードボタンは、デジタルディスプレイの数字を見ながら押してください。レコードボタンを押すたびに、数字がひとつずつ進みます。

6 リズムパターンを変え、メモリーを続ける。

RHYTHM PATTERN RHYTHM VARIATION

MARCH WALTZ BALLAD SWING BOUNCE SLOW ROCK 8BEAT 1 8BEAT 2 1 2

TANGO LATIN 1 LATIN 2 BOSSA NOVA SAMBA LATIN ROCK DISCO 18BEAT 3 4

ON RECORD BLANK END BACK FORWARD

リズムを変えるのは何小節目でもかまいません。

リズムを変えたい小節数をデジタルディスプレイが示したら、リズムパターンを変更し、レコードボタンでメモリーの操作を続けます。リズムの変更は、何回でも行えます。また、ブレイクバリエーションのパターンやリズムなしの小節をメモリーすることもできます。(22ページを参照してください。)

★2つ以上のプログラムボタンにメモリーし、再生するときにそれらを同時に押しておけば、連続して再生させることができます。その場合は、小さい番号のプログラムボタンから大きい方へ順番にリズムが再生されます。もし、4つのプログラムボタンのすべてにメモリーしておけば、最長256小節までの連続再生が可能です。

7 END(エンド)のボタンを押して、メモリーを完了させる。

ON RECORD BLANK END BACK FORWARD

エンドボタンを押すと、オンのボタンのランプが消え、メモリーが完了したことを示します。メモリーを完了させるのは、ひとつのプログラムボタンにつき64小節以内であれば、何小節目でもかまいません。エンドボタンを押したら、スタートボタンでいったんリズムを止めてください。

★64小節目までメモリーすると、デジタルディスプレイに[F](フル)が表示され、それ以上メモリーできないことを示します。

8 スタートボタンを押し、メモリーしたリズムを再生。

SYNCHRO

START

プログラムのボタンを入れたまま、スタートボタンを押すと、メモリーさせたリズムがスタートします。エンドのボタンを押した小節まで再生すると、再び1小節目までもどり、何度でも再生をくり返します。

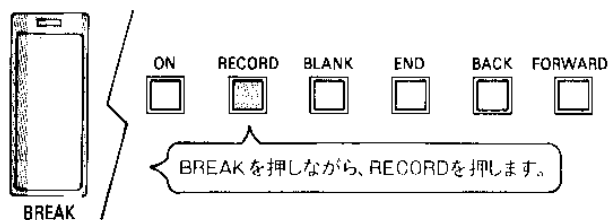
★メモリーしたリズムを再生するときでも、リズムのテンポ、ボリューム、バランスなどは、普通のとおり同じようにコントロールできます。

RHYTHM SEQUENCE PROGRAMMER リズムシーケンスプログラマー

●ブレイクバリエーションのメモリー

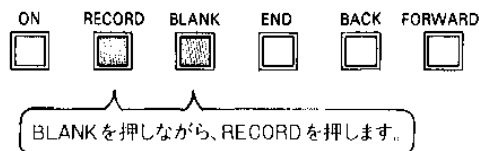
ブレイクバリエーションのパターンをフレーズの切れ目などにメモリーしておけば、再生したときリズムにアクセントをつけることができます。

ブレイクバリエーションをメモリーしたい小節数をデジタルディスプレイが示したら、BREAK(ブレイク)のボタンを押しながら、RECORD(レコード)のボタンを押してください。



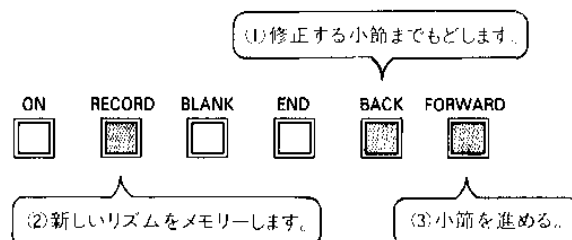
●リズムなしの小節のメモリー

リズムなしの小節をメモリーすることもできます。デジタルディスプレイがリズムをブランクにしたい小節数を示したら、BLANK(ブランク)のボタンを押しながら、RECORD(レコード)のボタンを押してください。



●メモリーの修正

BACK(バック)とFORWARD(フォワード)のボタンを使えば、メモリーの途中でも、すでにメモリーしたリズムの部分的修正が簡単に行えます。まず、デジタルディスプレイの表示を見ながら、BACK(バック)のボタンを押し、修正したい小節まで逆もどりさせてください。次に、新しいリズムパターンをセットし、レコードボタンを押せば、部分的にリズムが修正されます。FORWARD(フォワード)のボタンは、小節を次に進めるときに押してください。

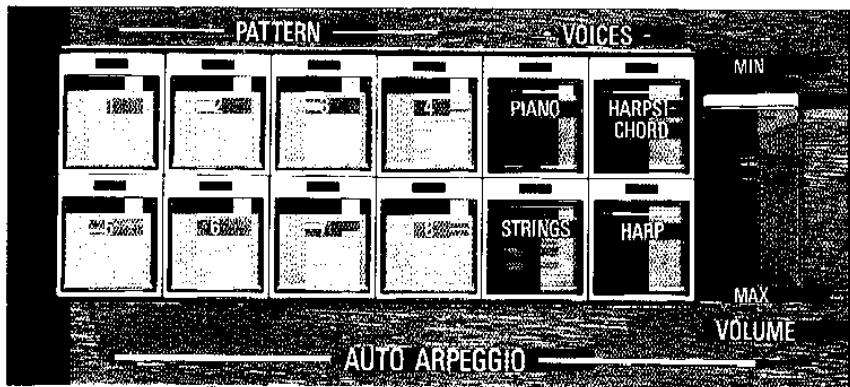


★バックやフォワードのボタンを押すことで、メモリーしている情報が変わり、消えたりすることはありません。

★オートバリエーションのNORMAL(ノーマル)のボタンを押すと、プログラムボタンはすべてOFFになります。なお、リズムシーケンスプログラマーのONのボタンが入っているときは、ノーマルのボタンを押してもプログラムボタンはOFFになりません。

★いったんメモリーした再生順序の情報は、電源を切っても消えることはありません。また、同じプログラムのボタンに新しい情報をメモリーすると、それまでメモリーしていた情報は自動的にキャンセルされます。

IX.演奏補助機能を使ってみましょう



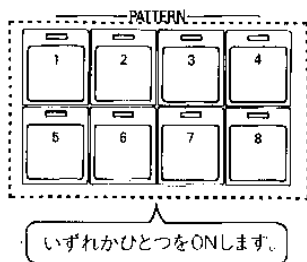
AUTO ARPEGGIO オートアルペジオ

さまざまなパターンの分散和音が、リズムに連動して自動的に得られる機能です。効果音として演奏のバックに流せば、より華やかさを増します。それでは、実際に音をだしてみましよう。

①リズムをセット。(17ページ参照)

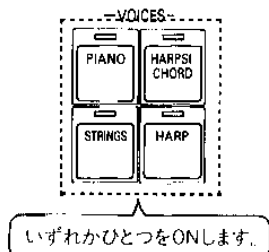
オートアルペジオはリズムに連動して働きますから、必ずオートリズムをセットし、スタートさせてください。アルペジオの速さも、セットしたリズムのテンポによって決められます。また、シンクロスタートのボタンを入れておけば、リズムとアルペジオを同時にスタートさせることができます。

②アルペジオのパターンを選ぶ。



アルペジオのパターンは、ひとつのリズムパターンに対して8つずつ用意されています。この8つのパターンは、それぞれのリズムパターンにふさわしいものがセットされていますから、同じ番号のボタンでも、リズムを変えると別のアルペジオパターンが得られます。

③アルペジオの音色を選ぶ。



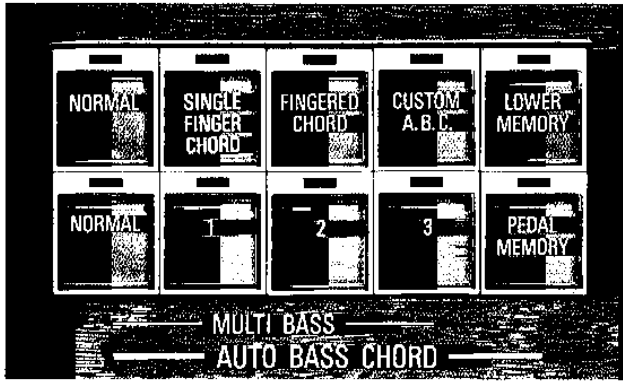
押したボタンの音色がアルペジオの音色になります。それぞれの音色には、サステインなどの効果が、あらかじめ組み込まれています。

④VOLUME(ボリューム)のスライダーをセット。

以上のようにセットして、下鍵盤をおさえると、アルペジオが自動的に得られます。このとき、下鍵盤でおさえるコードのポジションを変えると、それに応じてアルペジオの音域も変わります。リズムやアルペジオのパターンをいろいろと変え、どのようなアルペジオが得られるかを確認してください。なお、オートアルペジオが不要のときは、ボリュームをMIN(最小)にセットします。

★オートベース/コードセクションのLOWER MEMORY(ローワーメモリー)のボタンを入れると、下鍵盤から指を離した後も、アルペジオが鳴り続けます。(25ページ参照)

★ブレイクバリエーションを作動させている間は、オートアルペジオが時的にストップします。



AUTO BASS CHORD オートベース/コード

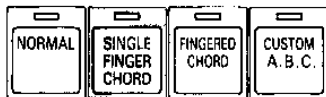
コード伴奏とベース伴奏が自動的に得られる機能です。シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.の3つの使い方ができ、ベース伴奏のパターンはマルチベースによって変化させることができます。また、指や足を鍵盤から離れた後も自動伴奏を持続させるメモリー機能も用意されています。

シングルフィンガーコード

① リズムをセット。(17ページ参照)

オートリズムをセットし、スタートさせてください。シンクロススタートのボタンを入れておけば、リズムと自動伴奏を同時にスタートさせることができます。

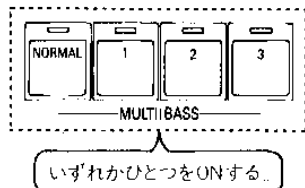
② SINGLE FINGER CHORD (シングルフィンガーコード)のボタンをON。



③ 下鍵盤とペダル鍵盤の音色をセット。(12、13ページ参照)

下鍵盤のスペシャルプリセットでは、RHYTHMIC CHORD (リズムックコード)のボタンを入れることもできます。

④ MULTI BASS (マルチベース)の4つのボタンで、ベース伴奏のパターンを選ぶ。



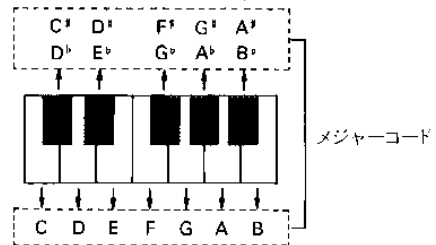
NORMAL (ノーマル)のボタンが入っていると、ベース伴奏はペダル鍵盤で踏んだ音がくり返すパターンや1度と5度の音が交互にでてくるパターンになります。1・2・3のボタンでは、より複雑なウォーキングベースなどのパターンが得られます。また、4つのボタンで得られるベースパターンは、それぞれのリズムパターンにふさわしいものがセットされていますから、同じ番号のボタンでも、リズムを変えるとベースパターンも変わります。

⑤ 下鍵盤を1音だけおさえる。

下鍵盤の音は、おさえた音を根音とするメジャーコードと変わります。また、リズムックコードを入れておけば、スペシャルプリセットの音は自動的に和音になるとともに、リズムに連動してきざまれます。

ペダル鍵盤からは、リズムに連動したベース伴奏が、下鍵盤で検出されたコードをもとにして得られます。マルチベースのボタンでベースパターンを変化させ、どのようなベース伴奏になるかを確認してください。

★下鍵盤でおさえる音と自動的に得られるメジャーコードの関係は次のとおりです。なお、シングルフィンガーコードでは、下鍵盤のどの音域をおさえても、自動伴奏の音域は変わりません。



●マイナーコード、セブンスコードなどのだし方

下鍵盤を2つあるいは3つ同時におさえることで、マイナーコード、セブンスコード、マイナーセブンスコードが簡単に得られます。

マイナーコード:コードの根音とともに、それより下の音域の黒鍵を同時におさえる。

セブンスコード:コードの根音とともに、それより下の音域の白鍵を同時におさえる。

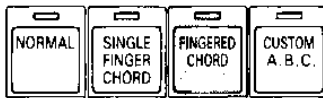
マイナーセブンスコード:コードの根音とともに、それより下の音域の黒鍵と白鍵を同時におさえる。

(例)



★シングルフィンガーコードでは、オートリズムを使わないときでも自動伴奏が得られます。その場合、リズムックコードは動きませんが、下鍵盤の音は自動的にコードとなり、ペダル鍵盤からはコードの根音が自動的に得られます。

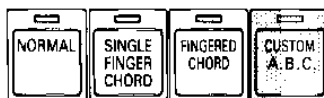
フィンガードコード



下鍵盤でコードをおさえるだけで、コードとベースの自動伴奏が得られる機能です。操作は、FINGERED CHORD(フィンガードコード)を入れ、リズムと下鍵盤、ペダル鍵盤の音色をセットし、マルチベースでベースパターンを選びます。

このようにセットして、下鍵盤でコードをおさえてください。おさえたとおりのコードが下鍵盤からでてくるとともに、ペダル鍵盤からは、そのコードにもとづいたベース伴奏がリズムに連動してでてきます。フィンガードコードのベース伴奏では、メジャーやマイナーなどのコード以外にもさまざまな種類のコードが検出されますから、下鍵盤で弾いたコードにふさわしいベース伴奏が自動的に得られます。

カスタムA.B.C.



下鍵盤で弾くコードとは別に、ペダル鍵盤を1音押すだけでベース伴奏が得られる機能です。操作は、CUSTOM A.B.C.(カスタムA.B.C.)を入れ、リズムと下鍵盤、ペダル鍵盤の音色をセットし、マルチベースでベースパターンを選びます。

このようにセットしたうえで、下鍵盤でコードを弾き、ペダル鍵盤を1音おさえてください。下鍵盤は、弾いたコードがそのままできてきますが、ペダル鍵盤からは、おさえた音にもとづいたベース伴奏がリズムに連動してでてきます。ペダル鍵盤でおさえる音は、コードの根音以外の音も任意に選べますから、より変化に富んだ自動伴奏が可能です。また、メジャーやマイナーといったコードの種類も自動的に検出されますから、下鍵盤で弾いたコードにふさわしいベース伴奏が得られます。

●LOWER MEMORY(ローメモリー)



下鍵盤から指を離した後、それまで弾いていた音をそのまま持続させる機能です。リズムがスタートしているとき、このボタンを入れると、セットしている下鍵盤の音色が指を離しても鳴り続けます。(スペシャルプリセットの減衰音は除く。)したがって、コードをチェンジするとき以外は、下鍵盤から指を離してもかまいません。なお、ローメモリーはオートベース/コードを使っているときだけでなく、リズムさえスタートしていれば働きます。

●PEDAL MEMORY(ペダルメモリー)



ペダル鍵盤から足を離しても、ベース伴奏を持続させる機能です。リズムをスタートさせ、オートベース/コードをセットしているとき、このボタンを入れると、ペダル鍵盤の音が足を離しても鳴り続けます。したがって、ベース伴奏の音程を変えるとき以外は、ペダル鍵盤から足を離してもかまいません。なお、ペダルメモリーはオートベース/コードを使っているときだけでなく、リズムさえスタートしていれば働きます。また、ローメモリーとペダルメモリーを同時に使うこともできます。

★左上のNORMAL(ノーマル)のボタンを押すと、シングルフィンガードコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.がキャンセルされます。

★ブレーク/リリエーションを起動させている間は、ベース伴奏がブレーク用のパターンに変化します。



PLAY ASSIST プレイアシスト

上鍵盤で弾くメロディーラインに、さまざまな付加音を自動的に重ねる機能です。2種類のメロディーオンコード、およびデュエット、カウンターメロディーの4つの使い方ができ、いずれもヤマハのコンピュータ技術が結集されています。付加音は音楽的に適合性のあるものが自動的に選ばれますから、表現機能の一部として充分活用することができます。

メロディーオンコード

メロディーラインの下にハーモニーを自動的に加える機能で、1と2の2種類があります。下鍵盤で弾くコードの構成音が検出され、上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーとして重なりますから、厚みのある響きが得られます。

1 MELODY ON CHORD(メロディーオンコード) 1または2のボタンをON。

最高2音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

最高3音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

2 音色をセット。

この2つのボタンで、自動的に加わるハーモニーの音色を決めます。ボタンを入れるとその音色群が呼び出されますから、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。2つのボタンを一緒にセットすることもできます。

以上のようにセットして、下鍵盤でコードを、上鍵盤でメロディーをそれぞれ弾いてください。メロディーラインの下に美しいハーモニーが自動的に加わります。

デュエット

メロディーラインの下に付加音が自動的に加わり、メロディーの二重奏が簡単に得られる機能です。上鍵盤で弾くメロディーと、下鍵盤で弾くコードの流れをエレクトーンが素早く読み取り、付加音としてふさわしい1音を検出しますから、音楽的にもハイレベルの演奏ができます。

1 DUET(デュエット)のボタンをON。

2 演奏する曲のキー(調)をメモリーする。

デュエットでは、自動的に加わる付加音を音楽的に適合性の高いものとするため、演奏する曲のキーをあらかじめメモリーさせます。まず、演奏する曲のキーのトニックコードを下鍵盤でおさえます。(例えば、ハ長調ならCメジャーコード、イ短調ならAマイナーコードをおさえてください。)次に、そのトニックコードをおさえたまま、KEYSET(キーセット)のボタンを押します。キーセットのランプが点滅して、キーがメモリーされたことを示します。

3 音色をセット。

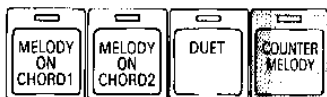
ひとつまたは両方のボタンを入れて、付加音の音色を決めます。入れたボタンの音色群が呼び出されますから、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。

以上のようにセットして、下鍵盤でコードを、上鍵盤でメロディーをそれぞれ演奏してみましょう。メロディーとコードの流れにそった美しい二重奏が自動的に得られます。

カウンターメロディー

上・下鍵盤を弾くだけで、効果的な対旋律がメロディーラインに加わる機能です。下鍵盤で弾くコードの構成音のなかから、付加音としてふさわしい1音が検出され、自動的にカウンターメロディーとして得られます。

1 COUNTER MELODY (カウンターメロディー)のボタンをON。



2 音色をセット。



ひとつまたは両方のボタンを入れて、カウンターメロディーの音色を決めます。入れたボタンの音色群が呼びだされますから、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。

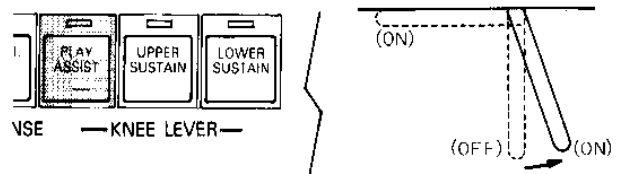
以上のようにセットして、下鍵盤でコードを、上鍵盤でメロディーをそれぞれ演奏してみましょう。メロディーとはちがったタイミングで、効果的なカウンターメロディーが自動的に加わります。

●VOLUME SOFT (ボリュームソフト)



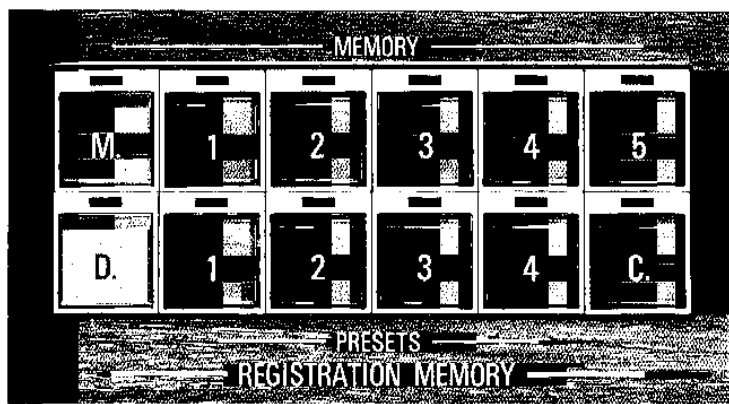
このボタンを入れると、メロディーオンコード1・2、デュエット、カウンターメロディーのそれぞれで自動的に得られる付加音の音量がやや小さくなります。メロディーラインをより際立たせたいときにお使いください。

●ニーレバーコントロール



プレイアシストの4つの機能は、ニーレバーを使うことで、演奏中でも任意にコントロールすることができます。まず、KNEE LEVER (ニーレバー)のPLAY ASSIST (プレイアシスト)のボタンを入れ、ニーレバーを真下に立てておきます。演奏中に付加音を加えたいところになったら、ニーレバーを右ひびで右に押ししてください。押しつけている間だけ付加音が得られます。

X.レジストレーションをエレクトーンが記憶します



REGISTRATION MEMORY レジストレーションメモリー

パネル面でセットしたレジストレーションを演奏前にメモリーしておく機能です。音色、効果、リズムのセッティングや音量などがすべて一度にメモリーでき、メモリーしたレジストレーションは、ボタンひとつでいつでも呼び出すことができます。

また、下段のPRESETS(プリセット)のボタンには、あらかじめ4種類のレジストレーションがセットされています。まず、このレジストレーションを呼びだしてみましょう。

●プリセットされているレジストレーション



下段にあるPRESETS(プリセット)の4つのボタンを使えば、エレクトーンにあらかじめ組み込まれているレジストレーションを呼び出すことができます。1~4のボタンのいずれかひとつを押してください。プリセットされている音色の組み合わせ、音量などが自動的に得られます。

PRESET 1	ブラス・サクソファンアンサンブル
PRESET 2	ストリングス・ハーブシコードアンサンブル
PRESET 3	チャーチオルガン
PRESET 4	シアターオルガン

★PRESETS(プリセット)のボタンには、次に説明する操作によって、パネル面でセットしたレジストレーションをメモリーすることができます。ただし、電源を切るとメモリーした情報はキャンセルされ、再度電源を入れたときはプリセットされているレジストレーションに戻りますのでご注意ください。メモリーした情報を消したくない場合は、いったんパネル面に呼びだし、上段の1~5のボタンにメモリーさせてください。

レジストレーションをメモリーする操作

1 メモリーしたいレジストレーションをパネル面でセット。
メモリーできるセッティングは、音色、効果、リズム、演奏補助機能のセレクトボタンと、音量などのスライダです。リズムのテンポもメモリーすることができます。

2 M.(メモリー)のボタンを押しながら、上段の1~5、あるいは下段の1~4のボタンのうち、ひとつを押す。

押したボタンが点滅し、レジストレーションがメモリーされたことを示します。演奏する曲に合わせて、他のボタンにもそれぞれレジストレーションをメモリーしてみましょう。

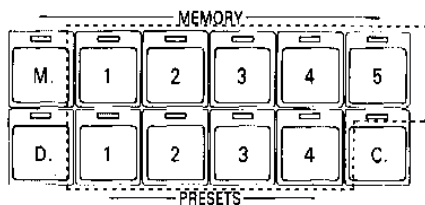
★FS-30A・FS 30・FS 30Mでは、コンビネーションのメモリーボタン、リズムのプログラムボタンをセットすれば、そのときそれらに記憶させている情報をメモリーすることができます。

★リバープ、リズムのシンクロススタート、スタート、ブレイク、マスターボリューム、トレモロスピード、エクスプレッションペダル、ピッチコントロールなどは、メモリーの操作とは無関係です。

★上段の1~5のボタンにメモリーした情報は、電源を切っても消えることはありません。また、同じボタンに新しいレジストレーションをメモリーすると、それまでメモリーしていた情報は自動的に消えます。

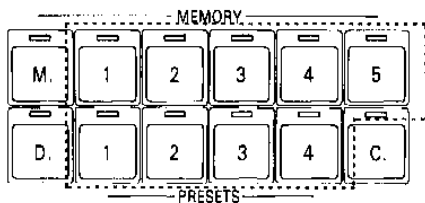
メモリーしたレジストレーションを呼び出す操作

1メモリーしたボタンのひとつを押し、曲の最初に使うレジストレーションを呼び出す。



押したボタンが点灯し、パネル面では音色、効果などのセレクトボタンが自動的に点灯されます。

2演奏の途中で別のボタンを押し、レジストレーションを変更。



ボタンを押すたびに、パネル面のセッティングが変わり、レジストレーションの変更が瞬時に行えます。

★ボリュームなどのスライダーは、上段の1～5、下段の1～4のボタンを押しても、メモリーしたときの位置には移動しませんが、ボタンを押すことによってメモリーした音量などを呼び出すことができます。

★メモリーしたレジストレーションを呼びだしているとき、パネル面を操作して音色や音量などを変更することもできます。パネル面でレジストレーションを変更しても、メモリーしている情報が消えることはありません。

ただし、音色だけを変更した場合は、たとえボリュームがMAX(最大)にセッティングされている場合でも、その音色のボリュームがMIN(最小)の状態にメモリーされていると、音はでませんのでご注意ください。このような場合は、ボリュームのスライダーを上下に動かすか、またはキャンセルのボタンを押してください。

●DISABLE(デイスエーブル)



メモリーしたレジストレーションを呼び出すとき、このボタンを入れておくと、リズムと演奏補助機能のレジストレーションが固定されます。したがって、上段の1～5、下段の1～4のボタンを押してレジストレーションを変更しても、オートリズム、オートアルペジオ、オートベース/コード、プレイアシストのセッティングは同じ状態に保たれます。音色と効果のみ変更したいときにお使いください。

●CANCEL(キャンセル)



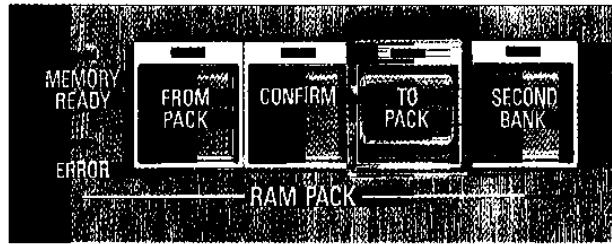
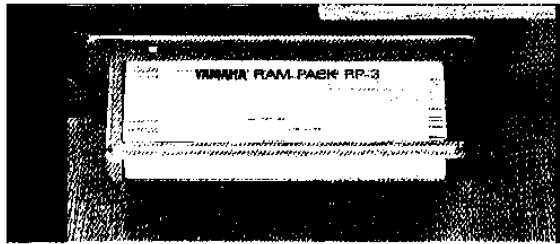
このボタンを入れると、ボリュームなどのスライダーのメモリーがキャンセルされ、そのときパネル面でセッティングしている音量などが得られるようになります。上段の1～5、下段の1～4のボタンを押してレジストレーションを呼び出すと、パネル面のスライダーは移動しませんが、音量などはメモリーしたときのものが得られます。したがって、パネル面のスライダーの位置と実際に得られる音量などは一致しくなくなります。これらメモリーされている音量などを、キャンセルし、パネル面でセッティングしているとおりにしたいとき、このキャンセルボタンをお使いください。

●電源を切ったときの自動メモリー

電源を切ると、そのときパネル面でセッティングしているレジストレーションが自動的にメモリーされます。したがって、再び電源を入れたときは、電源を切ったときにセッティングしていたボタンのセッティングが再現されます。なお、スライダーの位置はメモリーされません。

レジストレーションをパックが記憶します。FS-30Aのラムパック

※このページは、FS 30Aを演奏されるかたのみ、お読みください。

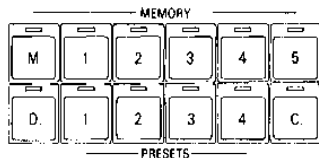


RAM PACK ラムパック

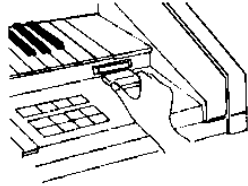
FS-30AにはRAM PACK(ラムパック)の機能があり、レジストレーションメモリーのボタン(上段の1~5、下段の1~4)にメモリーしたレジストレーションの情報を、そのままラムパックに移し、ストックしておくことができます。また、ラムパックに移した情報は、エレクトーンにメモリーさせることができ、いつでも自由に取り出せます。

エレクトーンの情報にラムパックにメモリーする操作<TO PACK>

1 レジストレーションメモリーの9個のボタン(上段1~5、下段1~4)にパネル面のレジストレーションをメモリーします。(28ページを参照してください。)



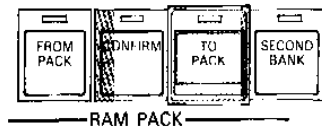
2 ラムパックを、エレクトーンに差し込みます。



MEMORY PROTECT(メモリープロテクト)のスイッチが付いている面を上にして、しっかりと差し込んでください。すると、MEMORY READY(メモリーレディ)のインジケータランプが点灯し、メモリーできる状態になったことを示します。

- ★SECOND BANK(セカンドバンク)ボタンのランプが消えていることを確認してください。
- ★パックを正しく差し込まなかった場合は、ERROR(エラー)のインジケータランプが点滅します。そのときは、もう一度入れ直してください。
- ★未使用のパックをつかう場合、パックをエレクトーンに差し込むと、MEMORY READY(メモリーレディ)とERROR(エラー)のインジケータランプが点滅します。MEMORY READY(メモリーレディ)はやがて点灯した状態で止まりますが、ERROR(エラー)はCONFIRM(コンファーム)のボタンを押すと点滅が消え、TO PACK(ツーパック)の操作によってエレクトーンの情報にパックに移せるようになります。

3 CONFIRM(コンファーム)のボタンを押しながら、TO PACK(ツーパック)のボタンを押します。



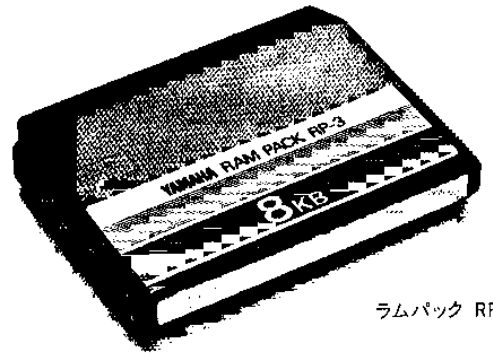
すると、TO PACK(ツーパック)ボタンのランプが点滅し、ラムパックに情報が記憶されたことを示します。この操作をした後は、ラムパックを引き抜いてもかまいません。

- ★パックには、パネル面のレジストレーションのほか、コンビネーションでメモリーした情報、リズムシーケンスプログラマーでメモリーした情報も記憶されます。
- ★▽~▽の操作で、エレクトーンにメモリーされている情報が消えてしまうことはありません。ただし、それまでラムパックにメモリーされていた情報は消えてしまいます。
- ★パックのMEMORY PROTECT(メモリープロテクト)がONになっていると、情報をパックに記憶させることはできません。TO PACK(ツーパック)の操作をする時は、かならずOFFの状態にしてください。

さらに、ちがうレジストレーションの情報を記憶させたい時は、SECOND BANK(セカンドバンク)のボタンを押し、▽~▽と同様の操作を行います。



- ★このように、ラムパックには9個のレジストレーションメモリーの情報をそのまま記憶させるバンクが2つあり、SECOND BANK(セカンドバンク)ボタンのランプが消えている状態と、点灯している状態とで、2通りの情報をストックしておくことができます。
- ★未使用のパックをつかう場合、SECOND BANK(セカンドバンク)のボタンを押すと、ERROR(エラー)のインジケータランプが点滅します。ERROR(エラー)はCONFIRM(コンファーム)のボタンを押すと点滅が消え、TO PACK(ツーパック)の操作によってエレクトーンの情報にパックに移せるようになります。



ラムパック RP-3

ラムパックの情報のエレクトーンメモリーへの操作
—RAM PACK—

1 ラムパックを、エレクトーンに差し込みます。

MEMORY READY (メモリーレディ)のインジケータランプが点灯することを確認してください。

2 SECOND BANK (セカンドバンク) ボタンのランプが消えていることを確認します。(セカンドバンクの情報を記憶させたい場合は、反対にボタンをONにします。)

RAM PACK

★この選択を間違えると、エレクトーンに記憶させたいラムパックの情報が入りません。

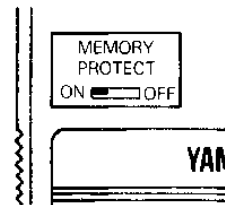
3 CONFIRM (コンファーム) のボタンを押しながら、FROM PACK (フロムパック) のボタンを押します。

RAM PACK

すると、FROM PACK (フロムパック) ボタンのランプが点滅し、エレクトーンに情報がメモリーされたことを示します。この操作をした後は、ラムパックを引き抜いてもかまいません。

★以上の操作をすることで、パックにメモリーされている情報が消えてしまうことはありません。ただし、それまでレジストレーションメモリーのボタン(上段1~5、下段1~4)にメモリーしていた情報は消えてしまいます。

●ラムパックに移した情報を消したくない時は…
メモリープロテクトをONにします。



- ★ラムパックには、情報の消去防止のためにメモリープロテクトがついています。これをONにしておけば、たとえTO PACK (ツーパック) の操作をしてもパックの情報は保護されるので、誤って消してしまうミスが防げます。
- ★メモリープロテクトは、いつでもOFFにし、またONにすることができます。

●ラムパックの保管

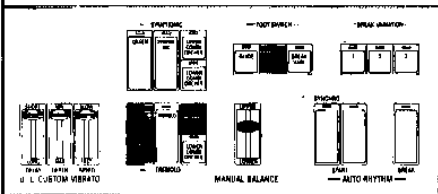
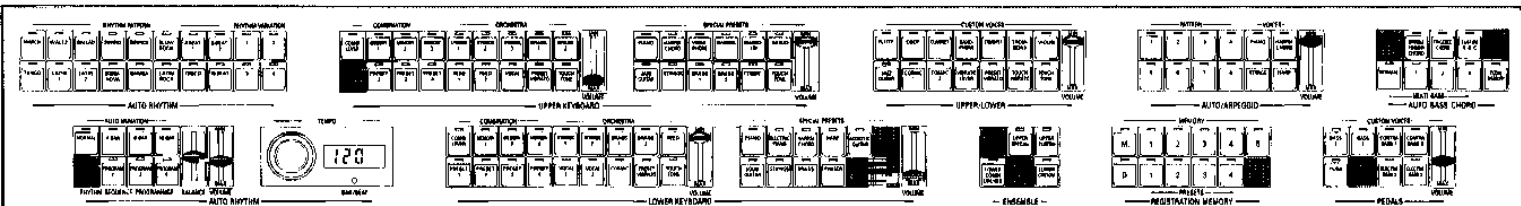
ラムパックの内部には、LSIなどの電子部品が入っていますので、その取扱いや保管では、次の点に注意してください。

- 落としたり、強い力を加えたりしないでください。
- 差込口の金属部を、かたい物などでこすったりして、キズをつけないでください。
- 内部に水やホコリの入らないように、ご注意ください。
- 保管する場合は、過度な温度や湿気にご注意ください。また、必ず専用のケースに入れて保管してください。

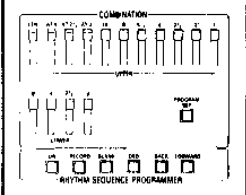
★ラムパックにメモリーされた情報は、内蔵の電池によってバックアップされていますが、長年使用している間に、この電池は消耗されます。電池が消耗してしまうとメモリーした情報は消え、新しい記憶操作もできなくなります。このような場合は、ご購入になった販売店、または電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。(電池の寿命は通常の使用で約5年です。)

—ラムパック(RP-3)—

ラムパックは、付属のもの以外に、別売りオプションとしても用意しています。数個のパックにレジストレーションをメモリーし、ストックしておけば、コンサートなどで幅広くご利用いただけます。

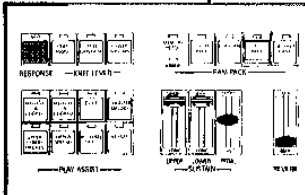


★FS-20では、リズムパターンをSAMBA、リズムバリエーションを2にセットしましょう。また、アッパーコンビネーションはPRESET 5をセットしましょう。



「オルフェのサンバ」のリズムをメモリーしてみましよう。 (FS-30A・30・30M)

★この曲のリズムは、楽譜の2小節分を1小節としてメモリーします。



プログラムのボタンを押す。

オンのボタンを押す。

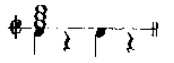
リズムをセットし、レコードのボタンを押す。

★リズムを以下のようにセットし、レコードのボタンを1小節ごとに押してください。
★ブレイクバリエーションのメモリーは、BREAKのボタンを押しながらレコードのボタンを押します。

小節数	リズムパターン	リズムバリエーション	ブレイクバリエーション	小節数	リズムパターン	リズムバリエーション	ブレイクバリエーション
1	LATIN2	3		19	SAMBA	2	
2	"	"		20	"		3
3	"	4		21	"	4	
4	"		3	22	"	"	
5	SAMBA	2		23	"	"	
6	"	"		24	"		2
7	"	"		25	"	2	
8	"	"		26	"	"	
9	"	"		27	"	"	
10	"	"		28	"	"	
11	"	"		29	"	"	
12	"		3	30	"	"	
13	"	2		31	"	"	
14	"	"		32	"	"	
15	"	"		33	"	"	
16	"	"		34	"	"	
17	"	"		35	LATIN2		3
18	"	"					

エンドのボタンを押す。

オルフェのサンバ



L. Bonfa 作曲

LATIN2 (BREAK) Tacet SAMBA CM7

(パーカッションソロ)

CM7

Dm7

Dm7 1. G G7

CM7 2. G G7

CM7 Gm7 C7

Fm7 Fm B^b7

E^b Tacet G7 CM7

CM7

Dm7

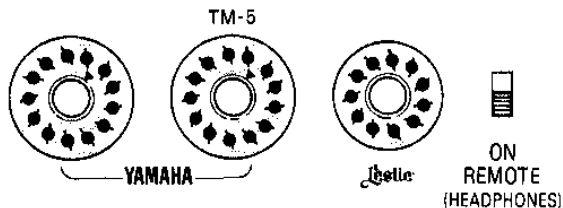
Dm7 G G7

C B^b C B^b C B^b C B^b

C B^b C B^b C LATIN2

付属端子・トーンキャビネットコネクター

(写真はFS-30A・FS-30・FS-20です。)



付属端子

●STEREO HEADPHONES(ステレオヘッドホン端子)

ステレオヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンを使うと、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。なお、モノラルヘッドホンを接続することもできます。[インピーダンス200Ω]

●AUX.OUT LEFT-RIGHT(ライン出力端子)

アンプやトーンキャビネットと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたいときに使う端子です。また、テープデッキのLINE-INジャックと接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。[インピーダンス170Ω]

●AUX.IN LEFT-RIGHT(ライン入力端子)

ステレオやテープの音をエレクトーンのスピーカーからだしたいときに使う端子です。レコード、テープの音に合わせて演奏することができます。[インピーダンス10KΩ]

●EXP.IN(エクスプレッション連動入力端子)

シンセサイザーやリズムボックスなどと接続するときに使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールできます。[インピーダンス10KΩ]

●MIC.(マイクロホン入力端子)(FS-30Mのみ)

マイクロホンを接続して、ご自分の歌や司会者の声などをエレクトーンのスピーカーからだしたいときに使う端子です。[インピーダンス21KΩ]

トーンキャビネットコネクター

トーンキャビネットコネクターは、エレクトーンの背面にあります。ステージ演奏の際などにご使用ください。

●YAMAHA(ヤマハトーンキャビネットコネクター)

ヤマハのトーンキャビネットを接続する13ピンのコネクターです。TM-5は右側のコネクターに、TM-1などのトーンキャビネットは左側のコネクターに接続してください。

●LESLIE(レスリースピーカーコネクター)

レスリースピーカーを接続する場合は、この11ピンのコネクターをお使いください。

●REMOTE(リモートスイッチ)

ヘッドホンを接続しているとき、このスイッチをONにすると、トーンキャビネットから音がでなくなります。また、トーンキャビネットから音をだしたい場合は、このスイッチをOFFにしてください。

●PITCH CONTROL(ピッチコントロール)

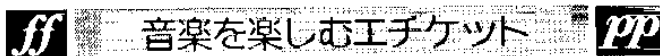
エレクトーン全体の音程が、微妙にコントロールできるつまみです。写真の位置が標準セット位置で、右に回すほど音程が高くなります。

●LIGHTS(パネルライトスイッチ)(FS-30Mのみ)

FS-30Mのパネル面と鍵盤を照らすパネルライトのスイッチで、棚板下にあります。ON側にセットするとライトが点灯します。

●MIC.VOLUME(マイクロホンボリューム)(FS-30Mのみ)

FS-30Mにマイクロホンを接続したとき、マイクロホンの音量をコントロールするつまみです。右に回すほど音量が大きくなりますので、適切な音量に調節してください。

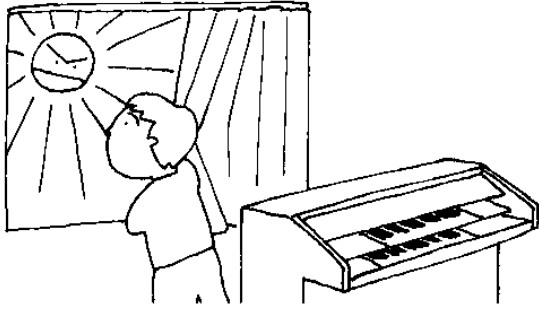


楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

未永く安全にお使いいただくために

設置場所について

- 直射日光はさけてください。
- 暖房器具の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所もさけてください。
- 振動の少ない、平らな床面に設置してください。
- 壁から10cm以上離すようにしてください。壁が直接振動するのを防ぎます。



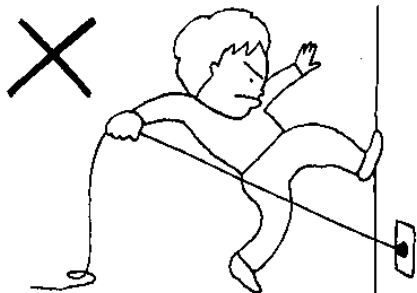
外装・鍵盤のお手入れは

- 外装や鍵盤のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- よごれがひどい場合は、水を少しふくませ、かたく絞った布で拭きとってください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますので、ビニール製のカバーなどはご使用にならないでください。



電源コードを大切に

- エレクトーン本体や椅子などで電源コードを踏みつけたり、足に引っ掛けたりしないように注意してください。
- コンセントから抜くときは、電源コードを引っばらないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは危険ですからさけてください。



無理な力を加えないでください

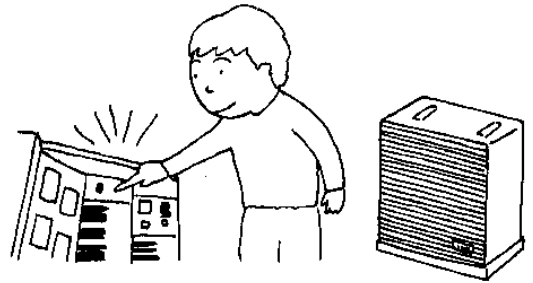
- ボタンやつまみ、スイッチ類に無理な力を加えることはさけてください。
- 椅子、譜面板などの取扱いで、疵をつけないように注意してください。

セットの移動時には

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

他の機器との接続について

トーンキャビネットなどを接続する場合は、34ページを参照のうえ、正しく接続してください。また、スピーカー破損防止のため、機器接続の際はそれぞれの電源スイッチを切ってください。

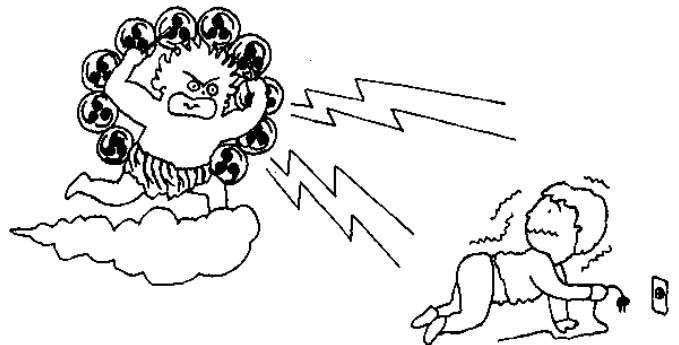


他の電気機器への影響について

このエレクトーンはデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどの電気機器を同時に使用すると、雑音や誤動作の原因になることがあります。他の電気機器から充分離してご使用ください。

落雷に対する注意を

落雷などのおそれがあるときは、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。



万一異常があったら

使用中に音がでなくなったり、異常なおいや煙がでた場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

本書と保証書の保管について

本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

●譜面板の取り付けと収納(FS-30M)

FS-30Mの譜面板は、椅子の中に収納されています。本体に取り付けるときは、落としたりしないよう取り扱いに注意してください。なお、セットの移動時などには、再び椅子の中に収納してから移動してください。

故障と誤りやすい現象

次のような現象は故障ではありませんのでご注意ください。このような現象でサービスを依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現 象	原 因 と 処 置
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、故障したネオンサインや電気ドリルなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音の入ることがある。	エレクトーンの数に近くラジオやテレビを置いてあると雑音の入ることがあります。なるべく離してご使用ください。
音が周囲の物を共鳴させてビビる。	エレクトーンのはきはき音は持続音が多いため、周囲の戸棚や窓ガラスなどの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素をもつため、音色による各鍵盤の音量のばらつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンでは、どの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。また、音量や音色は、エレクトーンの設定場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上・下鍵盤の高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音、低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音色がある。	主に管楽器系の音色で感じるがありますが、これは実際の楽器音の特徴を再現するため、特に組み込まれた音色効果です。ブラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな特徴をそなえた楽音が得られます。
ペダル鍵盤を同時に2音おさえても1音しかでない。また、アップパー/ローカスタムボイス音色は、同時に2音以上おさえても1音しかでない。	演奏上、設計上の理由から、ペダル鍵盤およびアップパー/ローカスタムボイス音色では、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上おさえた場合は、高音が優先されます。また、アップパー/ローカスタムボイス音色では、他の音色と組み合わせずに各鍵盤で単独に使った場合は、後でおさえた1音が優先されます。
上・下鍵盤をあわせて同時に13音以上おさえると、でない音がある。	このエレクトーンでは、上・下鍵盤を13音以上同時におさえると発音しない音があります。ただし、上・下鍵盤あわせて12音まで同時に発音しますので、通常の演奏にはまったく支障はありません。なお、オートリズムとローメモリーを同時に使っている時は、下鍵盤の発音数は最大5音までになります。
上・下鍵盤の音色を選んで、ボリュームのスライダーを下げても、選んだ音色がでてこない。	アンサンブルセクションのなかで必要なボタンが入っていないためです。上・下鍵盤では音色の組み合わせやキャンセルが素早く行えるよう、アンサンブルのボタンで集中的にコントロールするようになっています。必要な音色群のボタンを入れてください。(5ページ参照)
鍵盤をレガートに弾いたとき、アタック音またはデイレイブプラートが最初の音にかかからない。	上鍵盤のコンビネーションのアタック音、およびオーケストラ音色にかかるデイレイブプラートは、鍵盤をレガートに弾いた場合、最初の音に対してだけかかるように設計されています。

現象	原因と処置
プリセットビブラートのボタンを入れても、ビブラートがかからない。	プリセットビブラートでは、ビブラートのかかり方が、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。したがって、わずかしカビブラートのかからない音色や、まったくビブラートのかからない音色もあります。
タッチトーンのボタンを入れて鍵盤を強くおさえても音量・音色があまり変化しない。	イニシャルタッチ、アフタータッチによってコントロールできる音量・音色の変化の度合は、それぞれの音色にふさわしいようにプリセットされています。したがって、オーケストラ音色におけるイニシャルタッチのように、音色によってはあまり変化しないものがあります。
デジタルディスプレイのテンポ表示の数字が細かく変わらない。	操作性を高めるため、テンポつまみでセットするリズムのテンポは、実際の演奏に支障のない範囲で、あらかじめ決められたものになっています。
パネル面でセットしたリズムパターンとは、違うリズムがでてくる。(FS-30)	リズムシーケンスプログラマーのプログラムボタンが入っているためです。プログラムボタンが入っていると、パネル面でセットしたリズムは、メモリーさせたリズムに自動的に変更されます。(20ページ参照)
下鍵盤、あるいはペダル鍵盤が鳴りっぱなしになる。	リズムがスタートしているとき、オートベース/コードセクションのローメモリーを入れると、下鍵盤から指を離しても音が鳴り続けます。また、ペダルメモリーを入れると、ペダル鍵盤から足を離しても音が鳴り続けます。(25ページ参照)
上鍵盤と下鍵盤をおさえても、ブレイアシストによる付加音がでてこない。	付加音の音色がセットされていないためです。音色群を呼び出すボタンをひとつ、あるいは複数入れ、正面コントロールパネルで音色を選び、ボリュームをコントロールしてください。また、メロディーオンコード、デュエット、カウンターメロディーのいずれかを使用しているとき、上鍵盤の低音域でメロディーを弾くと、付加音が発音しない場合があります。(26、27ページ参照)
レジストレーションメモリーのボタンでメモリーしたレジストレーションを呼び出したとき、スライダーが移動しない。	このエレクトーンでは、ボタンのセッティングとともに各音色群の音量などをメモリーしておき、それを呼び出すことができますが、ボタンを押してレジストレーションを呼び出したときにスライダーは移動しないようになっています。
レジストレーションメモリーのボタンでメモリーしたレジストレーションを呼び出したとき、リズムや演奏補助機能のセッティングが変わらない。	ディスプレイのボタンが入っているためです。すべてのレジストレーションを切りかえたい場合は、ディスプレイのボタンを切ってください。(29ページ参照)
パネル面のボタンなどが正常に働かない。(ボタンのランプがすべて消えてしまうなど。)または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	このような場合には、いったん電源スイッチを切り、ブレークのボタンを押しながら電源スイッチを入れると、正常に機能するようになります。(ただし、この操作を行うと、エレクトーンにメモリーされている情報はすべて消えてしまいます。)それでもなお正常な状態に戻らないときは、お求めの楽器店、あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。
ツーパックとコンファームのボタンを押しても、ラムパックにメモリーできない。(ツーパックのランプが点滅しない。)〈FS-30A〉	ラムパックにある、消去防止用のメモリープロテクトがONになっているためです。OFFにして、もう一度入れ直してください。また、ラムパックを正しく差し込まない場合も、ツーパックおよびフロムパックのメモリー操作はできません。必ずメモリーレディのランプが点灯することを確かめてから操作してください。
フロムパックとコンファームのボタンを押したら、ラムパックの情報がエレクトーンに記憶されず、いままでレジストレーションメモリーに入っていた情報がすべて消えてしまった。〈FS 30A〉	セカンドバンクのボタンがONになっているためです。(ただし、ラムパックのセカンドバンクにも情報を記憶させている場合は、これに該当しません。)セカンドバンクのボタンをOFFにし、もう一度コンファームのボタンを押しながらフロムパックのボタンを押してください。

サービスと保証

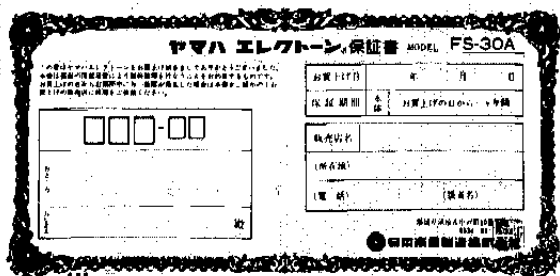
保証

エレクトーンのご保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満10年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う10年間の無償サービスをお約束しあげてものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。（エレクトーンの椅子の下にある保証書ホルダーをご利用ください）また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけくださるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が調整修理にお伺いします。

2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送しあげます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介しあげますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満10年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品（製品本来の機能を維持する為に必要な部品）の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介いたします。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(36～37 ページの「故障と誤りやすい現象」を参照)

●エレクトーンの様子詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当が付き、スムーズにいきます。
2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい●ある時間だけ雑音が出る●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。
3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。
症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点

全国のヤマハ特約店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔修理受付および修理品お預り窓1〕

東京電音サービスセンター

☎(044)434-3100
〒211 川崎市中原区木月1184

新潟電音サービスステーション

☎(025)243-4321
〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F

大阪電音サービスセンター

☎(06)877-5262
〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

四国電音サービスステーション

☎(0878)22-3045
〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内

名古屋電音サービスセンター

☎(052)652-2230
〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター

九州電音サービスセンター

☎(092)472-2134
〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

北海道電音サービスセンター

☎(011)781-3621
〒065 札幌市東区本町1条9-3

仙台電音サービスセンター

☎(022)236-0249
〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

広島電音サービスセンター

☎(082)874-3787
〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39

浜松電音サービスセンター

☎(0534)65-6711
〒435 浜松市上西町911(日本楽器宮竹工場内)

〔本 社〕

電音サービス部

☎(0534)65-1158
〒435 浜松市上西町911

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

仕様と音域表

仕様

●鍵盤

- 上鍵盤 : 49鍵c-c4 (4オクターブ)
下鍵盤 : 49鍵C-c3 (4オクターブ)
ペダル鍵盤 : 13鍵C-c (1オクターブ)

●コンビネーション

(FS-20)

- 上鍵盤 : プリセット1、プリセット2、プリセット3、プリセット4、
プリセット5、プリセット6、プリセット7、プリセット8
(コントロール) ボリューム
下鍵盤 : プリセット1、プリセット2、プリセット3、プリセット4、
プリセット5、プリセット6
(コントロール) ボリューム

(FS-30A・FS-30・FS-30M)

- 上鍵盤 : コンビネーションレバー、メモリー1・2・3、プリセット1、プリセ
ット2、プリセット3、プリセット4
(コントロール) ボリューム
(レバー) 16・8・5 $\frac{1}{4}$ ・4・2 $\frac{1}{4}$ ・2・1、
アタック4・2 $\frac{1}{4}$ ・2、アタックレングス、プログラムセ
ット
下鍵盤 : コンビネーションレバー、メモリー1・2・3、プリセット1、プリセ
ット2、プリセット3、プリセット4
(コントロール) ボリューム
(レバー) 8・4・2 $\frac{1}{4}$ ・2、プログラムセット

●オーケストラ

(FS-20)

- 上鍵盤 : スtrings1、Strings2、ブラス1、ブラス2、リード1、リード2
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、
ボリューム
下鍵盤 : スtrings1、Strings2、ブラス1、ブラス2、リード、ボーカル
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、
ボリューム

(FS-30A・FS-30・FS-30M)

- 上鍵盤 : スtrings1、Strings2、Strings3、ブラス1、ブラス2、
リード1、リード2、ボーカル
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、
ボリューム
下鍵盤 : スtrings1、Strings2、ブラス1、ブラス2、リード、ボーカ
ル1、ボーカル2、コズミック
(エフェクト・コントロール) プリセットビブラート、タッチトーン、
ボリューム

●スペシャルプリセット

(FS-20)

- 上鍵盤 : ピアノ、ハーブシコード、ビブラフォン、マリンバ、マンドリン、バ
ンジョー、ジャズギター、Strings、ブラス1、ブラス2、コズミ
ック
(エフェクト・コントロール) タッチトーン、ボリューム
下鍵盤 : ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ジャズギター、ソリ
ッドギター、Strings、ブラス
(エフェクト・コントロール) フェイザー、リズムコード、タッ
チトーン、ボリューム

(FS-30A・FS-30・FS-30M)

- 上鍵盤 : ピアノ、ハーブシコード、ビブラフォン、マリンバ、マンドリン、バ
ンジョー、ジャズギター、Strings、ブラス1、ブラス2、コズミ
ック
(エフェクト・コントロール) タッチトーン、ボリューム

- 下鍵盤 : ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ハーブ、アコース
ティックギター、ジャズギター、ソリッドギター、Strings、ブ
ラス
(エフェクト・コントロール) フェイザー、リズムコード、タッ
チトーン、ボリューム

●カスタムボイス

- 上・下鍵盤 : フルート、オーボエ、クラリネット、サクソフォン、トランペット、
トロンボーン、バイオリン、ジャズギター、コズミック1、コズミック2、
(エフェクト・コントロール) ビブラートレバー、プリセット
ビブラート、タッチビブラート、タッチトーン、ボリューム
ペダル鍵盤 : バス1、バス2、コントラバス1、コントラバス2、チューバ、エレクト
リックベース1、エレクトリックベース2、エレクトリックベース3
(コントロール) ボリューム

●アンサンブル

- アッパーコンビネーション / オーケストラ、アッパースペシャルプリセット、アッ
パーカスタムボイス、ローコンビネーション / オーケストラ、ロースペシャル
プリセット、ローカスタムボイス

●エフェクト・コントロール

- U/I. カスタムビブラート : テイレイ、デプス、スピード
シンフォニック : セレステ、シンフォニック、アッパーコンビネーション / オーケ
ストラ、ローコンビネーション / オーケストラ
トレモロ : コーラス、トレモロ、アッパーコンビネーション / オーケストラ、
ローコンビネーション / オーケストラ、トレモロスピード
サステイン : アッパーサステイン (ニーレバー)、ローサステイン (ニーレバ
ー)、(レングスコントロール) アッパー、ロー、ペダル
レスポンスファースト、リバープ、グライド (フットスイッチ)、マニュアルバランス

●オートリズム

- リズムパターン : マーチ、ワルツ、バラード、スイング、バウンス、スローロック、
8ビート1、8ビート2、タンゴ、ラテン1、ラテン2、ボサノバ、
サンバ、ラテンロック、ディスコ、16ビート
リズムバリエーション : 1・2・3・4
コントロール : シンクロススタート、スタート、テンポ、ボリューム、バランス、リズ
ムストップ (フットスイッチ)、テンポインジケータランプ、デ
ジタルディスプレイ
ブレークバリエーション : 1・2・3、ブレーク、
ブレークバリエーション (フットスイッチ)
オートバリエーション : ノーマル、4バー、8バー、16バー
リズムシーケンスプログラマー (FS 30A・FS 30・FS-30M) : プログラム
1・2・3・4、オン、レコード、ブランク、エンド、バック、フォワード

●オートアルペジオ

- パターン : 1・2・3・4・5・6・7・8
ボイス : ピアノ、ハーブシコード、Strings、ハーブ
(コントロール) ボリューム

●オートベース/コード

- ノーマル、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムA.B.C.、ロ
ワーメモリー、ペダルメモリー、マルチベース (ノーマル・1・2・3)

●プレイアシスト

- メロディーオンコード1、メロディーオンコード2、デュエット、カウンターメロディー
(音色セレクター) アッパーコンビネーション / オーケストラ、アッパースペシ
ャルプリセット
(コントロール) ボリュームソフト、キーセット、プレイアシスト (ニーレバー)

●レジストレーションメモリー

- メモリー : 1・2・3・4・5
プリセット : 1・2・3・4
コントロール : メモリー、ディスプレイ、キャンセル

●ラムパック (FS-30A)

フロムパック、コンファーム、ツープック、セカンドバンク
(インジケーター)メモリーレディ、エラー

●メインコントロール

マスターボリューム、エクスプレッションペダル、ユーレバー、フットスイッチ、
パワースイッチ、パイロットランプ、ピッチコントロール、パネルライトスイッチ (FS
30Mのみ)、マイクロホンボリューム (FS 30Mのみ)

●付属端子・トーンキャビネットコネクター

付属端子:ステレオヘッドホン、AUX.OUT (L R)、AUX.IN (L R)、EXP.
IN、MIC. (FS 30Mのみ)

トーンキャビネットコネクター:ヤマハ×2、レスリー、リモート

●アンプ

センター:60W(rms)、レフト:30W(rms)、ライト:30W(rms)

●スピーカー

センター:30cm×20cm×6cm、レフト:20cm×6cm、ライト:20cm×6cm

●定格電圧:100V・定格消費電力150W (FS 30・FS 20)165W (FS 30M)・
定格周波数50/60Hz

●寸法・重量

FS-30A・FS 30・FS 20本体:間口116.8cm、奥行66.7cm、高さ104.4cm、
(譜面板を立てたとき117.1cm)、重量90kg

FS 30M本体:間口124.2cm、奥行66.6cm、高さ99.3cm(譜面板をつけたとき
118.4cm)、重量103kg(譜面板をつけたとき105.5kg)

椅子:間口66.0cm、奥行31.5cm、高さ55.7cm、重量7.5kg (FS 30A・FS 30・
FS 20)

間口184.0cm、奥行32.0cm、高さ55.7cm、重量18.5kg (FS 30M)

●外装

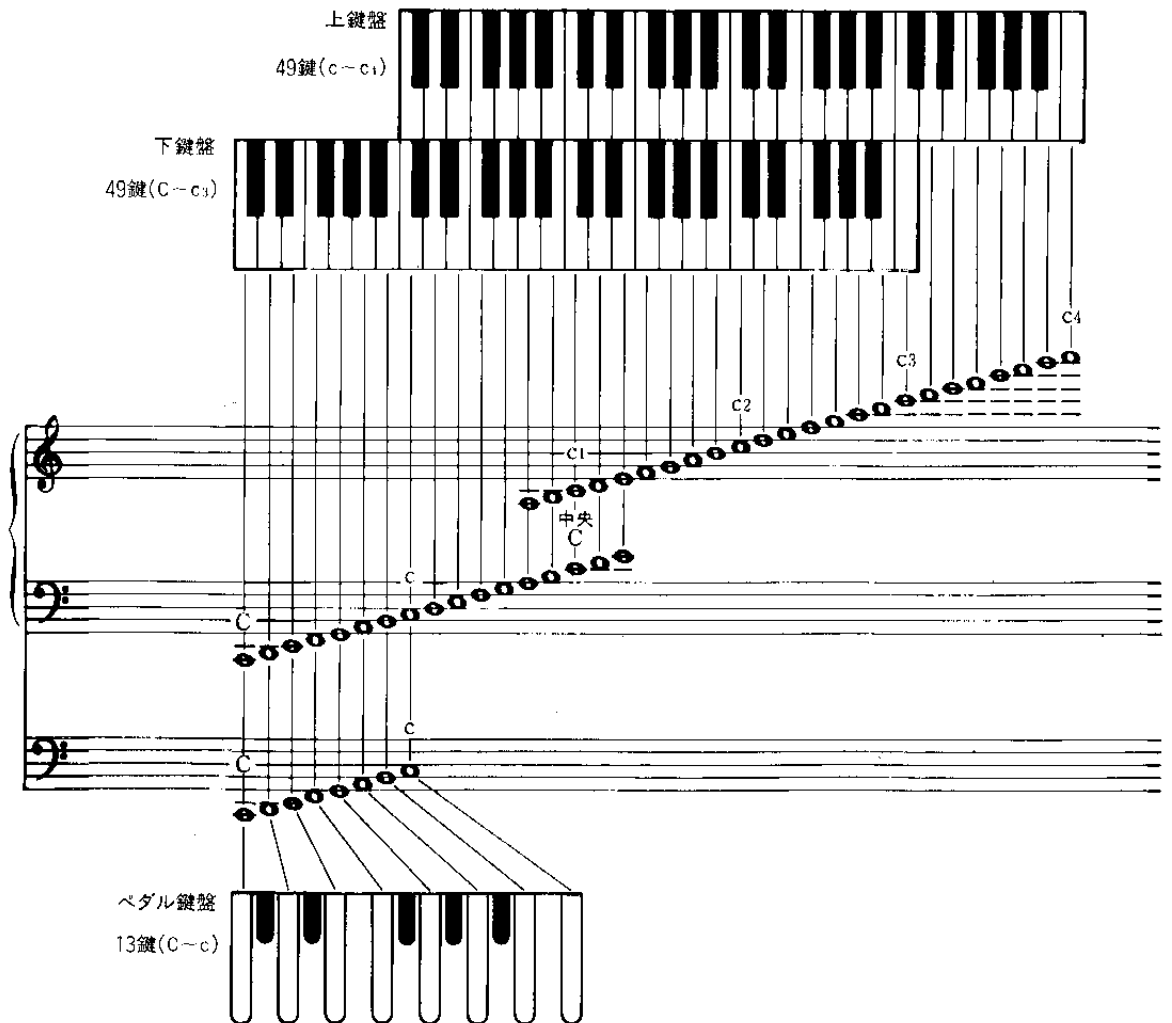
アメリカンウォルナット・グレイン (FS 30A・FS-30・FS-20)

アイボリー・エナメルフィニッシュ (FS-30M)

音域表

●この音域表は8の音を基準にしています。

●ペダル鍵盤の実音は、記譜より1オクターブ低い音になります。



エレクトーン事業部 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(60)2191

東京事業所 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル
TEL. 03(572)3111

大阪事業所 〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋フラザビル東館
TEL. 06(252)7541

名古屋事業所 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. 052(201)5145

九州営業所 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2152

北海道営業所 〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL. 011(512)6114

仙台営業所 〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル
TEL. 022(222)6141

広島営業所 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL. 082(244)3744

エレクトーン等は当社の登録商標です。

 **YAMAHA**
日本楽器製造株式会社